

上海へ轉報アリタシ

(別電二)

南京 發

本省 7月7日後着

第六八九號

本官發支宛電報

第六七九號(大至急、別電)

各省市黨部宛

本年五月上海新生週刊カ日本皇帝ニ對スル不敬文字ヲ登載シ反感ヲ惹起シタル處日本國体ハ萬世一系ヲ以テ世ニ顯ハレ其ノ國民ノ元首、皇室ニ對スル尊崇ハ世人ノ想像シ得ル所ニアラス故ニ記載評論等聊カニテモ憤マサル所アラハ直

ニ日本國民ノ感情ヲ害スルニ至ル、一年以來本會ハ不取敢戒告ヲ發シ幸ニ良ク確守セラレタル處測ラスモ該新生週刊ニ猶ホ此ノ意外ノ記事アリ既ニ嚴重處分ヲ行ヒタルカ將來再ヒ同様事件ノ發生ヲ防止センカ爲茲ニ特ニ再ヒ切實戒告ヲ果シ各現地出版界及各新聞社ニ轉飭シ爾後各種ノ記載或ハ評論ヲ嚴重防止シ決シテ形式視セシムル勿レ

次ニ本年六月十日ノ國民政府ノ命令ヲ准照シ所屬職員ニ對シ如何ナル排日運動ニモ參加スルヲ得サル旨嚴飭シ且人民ヲ勸導シ切實遵守セシムルコト肝要ナリ

大臣、北平、天津へ轉電セリ

上海へ轉報アリタシ

三 華北問題

1 一般問題

230

昭和10年1月⁽¹²⁾日

在中国若杉大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

華北諸問題で一方的要求を続ける日本側の高
圧的態度是正を黃郛要望について

北平 發

本省 1月12日後着

第一三號(極秘)

⁽¹⁾黃郛近日南下ノ由聞込ミタルヲ以テ本官十日黃郛ト會見シ長時間ニ亘リ話合ヒタル處黃ハ過般汪兆銘ヨリ張群ヲ當地ニ派遣シ内政上ノ理由ニ依リ(要人等ノ内政部長割込運動及同部職員ノ動搖ヲ防ク爲)黃郛ノ内政部長就任方勸告ノ次第モアリ過日來ノ病氣モ略恢復セルヲ以テ十五日何應欽ノ來平ヲ待チ打合ノ上二十日頃蔣介石ノ南京行ト同時ニ南下シ蔣介石及汪兆銘ト協議ノ上内政部長就任ヲ引受クヘキ

ヤ又ハ同部長並ニ政務整理委員會長ノ現職ヲモ辭退スヘキヤ否ヤヲ決スル考ナル趣ナルカ黃ハ縷々今日迄關東軍ト國民政府トノ板挾トナリ過去一年間ニ亘リ關東軍トノ申合事項タル諸懸案解決ノ爲日本側ノ想像シ得サル苦境ニ立チタル事情ヲ説明シ而シテ同懸案解決ニ對シテハ日本側ニ於テモ相當之ニ好意的代償ヲ與フルモノト信シ一身上ノ危險ヲ冒シテ通車通郵並ニ設關ヲ斷行シ通郵ノ如キハ申合セ當初ニ於テハ單ニ關内外ニ於ケル地方的聯絡ニ過キサルモノト理解シ居リタルニ拘ラス進シテ全國的ニ通郵ヲ行フニ至リ更ニ電信電話航空聯絡ニ付テモ其ノ實行方法ヲ考慮中ナルニ拘ラス日本側ニ於テハ右申合事項ノ成立當時支那側ノ希望條項タル

⁽²⁾一、非戰區内ノ支那行政ニ關與セサルコト(特ニ保安隊ノ編入問題)

二、馬蘭峪ノ接收

三、多倫ノ接收

大東公司が中国人労働者の満州国入国制限以
外の活動を行なう場合には事前に十分検討す
るよう意見具申

231 昭和10年2月9日

在青島坂根総領事より
広田外務大臣宛(電報)

感ヲ去り支那側ニ於テ排日感ヲ除クニアリト結論セリ尙黃
郭腹心ノ袁市長カ九日私用ヲ以テ本官來訪ノ際袁ハ日本側
ノ高壓的態度今日ノ如クナルニ於テハ黃郭ノ苦境見ルニ忍
ヒス黃今回南下ノ上ハ歸任セサルヘシト語リタルカ同日來
訪ノ許卓然モ黃郭ノ歸任ハ困難ナルヘク或ハ辭任ヲ許サレ
ストスルモ當分郷里ニ引籠リ當地歸來ヲ見合スニ至ルヘク
萬一黃郭辭任スル場合ハ當方面ニ總動員セラレ居ル親日要
人等モ漸次手ヲ引クコトトナルヘシト鮮カラス悲觀的ノ口
調ニテ語レリ御參考迄
(轉電先脱?)

等ニ付テハ今以テ何等好意的態度ヲ示サス自分トシテハ中
央政府ニ對シ何等辯解ノ點無ク殊ニ非戰區域内玉山附近ニ
於ケル元馬賊隊ノ横暴(最近民家三百ヲ燒キ六十餘人ヲ殺
戮シ掠奪ヲ擅ニセルカ如キ)サヘモ取締ルヲ得サル狀態ニ
陥リ又于學忠ニ於テ右非戰區ニ編入スヘキ保安隊九千名ヲ
既ニ一年間訓練養成ノ爲國帑五百萬元ヲ費セルニ拘ラス未
タ之カ編入ヲ許サレス其ノ治安ノ責任上ヨリスルモ河北省
民ニ對シ全ク自分ノ威信ヲ失墜セル有様ニテ斯ノ如ク支那
側ニ於テ如何ニ對日緩和ニ努力スルモ日本側ニ於テハ事毎
ニ自分等ノ誠意ヲ疑フカ如キ宣傳ヲ行ヒ支那側ノ感情ヲ刺
戟スルコト頻々ナルカ元來自分ハ日支間ノ大局上非常ノ決
心ヲ以テ北支ニ乗出シ塘沽協定ヲ締結シタルハ殊ニ自分限
リニ於テハ事實上東北四省ノ分離ヲ默認セル次第ニシテ飽
迄モ北支ニ於テ日支協調ノ政策ヲ實行スル覺悟ナルヲ以テ
前記申合事項ノ履行乃至非戰區内ノ整理ノ如キハ僅ニ枝葉
ノ問題ニシテ

自分ノ北支ニ於ケル抱負遂行ノ一階梯ニ過キササルモノナル
カ斯ノ如ク瑣末ノ問題ニサヘ自分等ノ誠意認メラレス常ニ
日本側ノ高壓的態度ニ依リ次カラ次ヘト際限無ク種々ノ要

求ヲ持チ掛ケラレ中央ニ對シ自分等ノ立場ヲ困難ナラシム
ルカ如キ狀態ニテハ到底自分等ノ抱懷スル日支提携ノ前途
打開ノ見込ミ乏シキヲ以テ今一應蔣介石及汪兆銘ト協議ノ
上愈去就ヲ決スル考ナリト語レルニ付本官ハ貴下ノ苦境ハ
推察ニ難カラサルモ之位ノ難局ヲ押切り得サル位ニテハ今
後一層錯綜スヘキ北支ノ政局ヲ處理スルコト困難ナルヘク
要ハ根本的ニ國民政府自体ノ對日態度ヲ是正スルコト最モ
肝要ナルニ付(往電第七號孫科ニ對スルト同様國民黨及政
府ノ對日態度ニ言及シ)蔣汪ト打合ノ上今一段ノ忍耐ニテ
此ノ上共日支關係ニ當ラレ度ク之カ爲ニハ今少シ積極的
ニ例ヘハ北支開發ノ爲棉花栽培^蠶及交通發展策等ヲ講シ本官
ヨリ先日許卓然ニ對シ内密貴下ヘ勸告方依頼シタル華昌公
司ノ利權ニ屬スル滄石鐵道建設等ヲ實現シ日支協調ニ依リ
兩國民ノ福利増進ノ實例ヲ示スニ於テハ貴下ノ誠意モ證明
セラルル次第ナラスヤト説キタル處

黃ハ現在ノ如キ不安ト恐怖ノ念ニ滿チタル四圍ノ情勢ニ於
テハ是等建設的事業ヲ提議スルモ支那側ニ於テ直ニ之ニ應
シ得サル實情ナルヲ以テ暫ク時機ヲ待ツ外無カルヘシト難
色ヲ示シ最後ニ日支關係調節ノ根本義ハ日本側ニ於テ優越

大東公司ノ入滿苦力取扱方ニ關シテハ關東州ニ於テモ之カ
取締規則制定セラルル趣ナルヲ以テ臆テ苦力上陸地タル滿
洲國又ハ關東州ニ於テ嚴重取締ヲ勵行セラルルニ於テハ當
地大東公司ノ仕事モ樂ニナリ漸次所期ノ效果ヲ舉クルコト
差シテ困難ナラサルヘシトモ思考セラルルモ右大東公司ハ
差當リ入滿苦力取締ニ任スルノ外行々ハ滿洲國特務機關ト
云フヘキカ將又滿洲國ノ支那ニ於ケル出先官憲ノ役目ヲ果
スヘキ使命ヲモ有スルヤノ趣ナルカ既ニ本年ニ入りテハ小
規模乍ラ其ノ事務所ニ無電機ヲ設置シ内密ニ滿洲國及支那
各地ノ軍部方面トモ聯絡ヲトリ居リ將來ハ滿洲國ノ通信社
ト聯絡シ通信ノ授受頒布ヲモ行ヒ度キ豫定ナル趣ノ處昨年
入滿苦力取締方實施ニ當リテハ其ノ計畫ノ突然ナリシト其
ノ發令系統ヲ缺キタルコト等ノ爲當方事務處理ノ手續上ニ
モ頗ル不便ヲ感シタルコト鮮カラサリシノミナラス之カ保
護取締ニ餘分ノ困難ヲ來シタルニ鑑ミ將來大東公司カ前記
入滿苦力取締以外ノ事業ヲ行フ場合ニハ我國ノ對支外交工
作ニ相當影響アル種類ノモノモ有之ヘシト存セラルル點モ
アリ豫メ中央ニ於テ篤ト御打合ヲ遂ケラレ愈實施ノ場合萬
事圓滑好都合ニ運フ様充分御考究ノ上ノコトニ願度希望ニ

堪へサル次第ナリ右思付ノ儘何等御參考迄
支、滿、天津、芝罘、濟南、北平ニ轉電セリ

232 昭和10年2月12日 在青島坂根總領事より
広田外務大臣宛

青島在留邦人と中国官民との融和状況について

普通第九一號 (2月21日接受)

昭和十年二月十二日

在青島

總領事 坂根 準三(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

在青島居留邦人ト支那官民トノ融和狀況報告ノ件

滿洲事變勃發前後ニ於ケル當地支那官民ノ對日態度ハ他地方同様惡化ヲ極メシモ排日排貨ノ策動本據タル市黨部燒打以來聊カ緩和スルニ至リ更ラニ我軍事行動ノ擴大ニ伴ヒ極度ノ恐日心理ニ囚ハレ只管事勿レ主義ニ轉化シタルノミニテ釋然我方ト提携セントスルニハ至ラサリシカ昭和八年五月北支停戰協定成立以後當方面ニ對スル我方ノ意圖ヲ諒解シ漸次接近シ來リタルヲ以テ本官ハ此氣運ニ乘シ機會アル

黨部燒打事件後其勢力復活ヲ陰ニ阻止シタル結果今日假令一部支那人間ニ排日の空氣低迷潛在スルトコロ無キニアラスト雖モ表面公然ト排日排貨ヲ叫ブモノ無キタメ日支人間ノ商取引ハ何等故障無ク行ハレ輸入日貨ノ如キハ上海地方ニ於ケル排日熾烈ノ頃ハ山東山西河南ハ勿論遠ク湖北四川方面行貨物迄青島經由輸入セラレタル有様ニテ日支貿易ノ好調ハ延ヒテ當地一般ノ輸出入貿易ノ發展ヲ助長シ昭和八年度第五位ノ貿易港タリシモノカ昭和九年度ハ一躍第三位ニ上リ上海天津ニ次クノ地位ヲ占ムルニ至レリ
次ニ支那官民ト邦人トノ融和關係ニ依ル邦人經濟上ノ著ルシキ進展トシテ舉クヘキ具体的事例ハ廣大ナル官有地借地權ノ獲得ニシテ即チ客年中同興紡績八萬坪、上海紡績七萬坪、豐田紡績六萬坪ノ工場敷地ノ貸下ヲ受ケタルカ右貸下ニ付テハ上海支那側紡績筋ノ躍氣的反對運動アリタルニ拘ラス遂ニ實現ヲ見タルモノニシテ上海、豐田ノ兩社ハ工場建設中ニテ本年中ニハ繰業開始ニ至ルヘク前記三社ノ青島進出ノ結果既存ノ公大外五社ノ現總鍾數四十萬鍾ニ新設會社ノ新鍾數ヲ加算スルトキハ明年中ニハ五十萬鍾ニ達スル豫想ナルヲ以テ將來北支方面ノ紡績界ハ當地邦人ノ左右ス

毎二直接間接沈市長葛委員長ヲ始メ支那側要路ノ官民ニ對シ當地方ノ安寧平和乃至繁榮發展ハ邦人ニ負フ處鈔カラス即チ地理的歷史的觀點ヨリスルモ山東省カ我國ト密接不離ノ關係アルノミナラス殊ニ青島ハ在留邦人一萬五千ニ達シ地元ハ申スニ及ハス膠濟鐵道沿線主要都市ニ確固不拔ノ經濟的地盤ヲ有シ從テ省內資源ノ開發省民ノ福利増進ニハ日支人互ニ提携シ事業ヲ振興スルニ非ラサレハ不可能ナルコトヲ力説シ來リタルカ事變ノ平常化スルニ伴ヒ兩國官憲間ノ各種交渉モ大体圓滑ニ進ミ益々親密ヲ増進シ我海軍ト支那側トノ折合ノ如キモ客年聯合艦隊練習艦隊ノ當地訪問等ニ依リ一層親交ノ度ヲ増シタル次第ハ既報ノ通りナリ而シテ本官ノ特ニ留意苦心シタルハ我經濟的發展ノ基礎ヲ構成スルホ在留邦人ノ權益増進上在留民ト支那官民トノ間ニ圓滿且緊密ナル關係ヲ結成セシムル點ニ在リタルカ由來兩者關係惡化ノ原因ハ一般日支間ノ政治外交關係ノ推移乃至時局不安等ニ基因スルコト勿論ナルモ地方的ニ直接影響ヲ齎ラスモノハ黨部及ヒ職業排日團ノ横行ヲ支那官憲カ放任スルカ或ハ取締ノ意志アルモ其力無キコトニ歸スル處當地ニ於テハ豫テ市黨部ノ橫暴跋扈ニ惱ミ居リタル市政府當局ハ

ルトコロトナルニ至ルヘシ
右ノ如ク支那官民側カ相當眞面目ニ融和的態度ヲ示シ居ルニ對シ我方トシテハ兎角日支間紛擾ノ種ヲ蒔ク邦人不良分子ノ策動ノ防壓乃至禁制品取扱業者ノ取締ヲ嚴重ニシ進テ邦人ノ對支那觀誤謬ノ是正ニ努メ居レルカ一般在留民亦日支提携ニ依ル經濟發展ノ必要ヲ承知シ出來得ル限り支那官民トノ接觸ヲ計ラムトスルニ至リ其一例トシテ極メテ瑣末事乍ラ客年末邦商白石洋行ハ在青二十年紀念トシテ我陸軍省ニ國防獻金ヲ行フト同時ニ當地市政府ニ對シ其主宰スル社會事業費トシテ銀百、元ヲ寄贈シタル處市政府側ヨリハ當地競馬場賦課金中ヨリ舊年末ニ際シ日本側ノ社會事業費トシテ銀八百元ヲ贈與シ其好意ヲ示セリ又客月二十六日ニハ我居留民團商工會議所聯合主催ノ下ニ在留邦人ハ沈市長、葛委員長、宋商務會長其他支那側官民新聞記者等多數ヲ招宴一大懇親會ヲ開キ交驩ヲ重ネタリ(民團參事會長ノ挨拶、沈市長ノ謝辭別紙ノ通りナリ)
當地方日支人間ノ融和狀態ハ目下ノ處大体敍上ノ如クニシテ固ヨリ完璧トハ申シ難キモ變則的日支國交ノ現狀ニ顧ミ比較的順調ニ進ミツツアルモノト認メラルル處此情勢力果

シテ何時迄持續スルヤ豫斷シ得サルモ一般或ハ地方的ニ何等特殊ノ不祥事變動發セサル限り差當リ急激ナル變動ヲ見ルコトナカルヘキヤニ觀測セラレ
右何等御參考迄報告申進ス
本信寫送付先 公使 北平 濟南

233 昭和10年2月16日 在中國若杉大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

華北における棉花改良事業への技術上および
經營上の我が方指導協力につき駐平政務整理
委員會委員の湯爾和より打診について

北平 2月16日後発
本省 2月16日後着

第六一號

華北建設具體案審議ヲ擔任スル政務整理委員會華北建設討論會常務委員湯爾和及許卓然ヲ十四日招待懇談シタル處湯ハ鐵道ノ如キ中央政府ノ許可ヲ要スル事業ハ中々面倒ナルモ貿易及農村救済ノ爲差當リ着手容易ニシテ且有利ナルハ棉花栽培改良事業ニシテ自分等ノ地位ト信用ニ依リ政府及

同時ニ棉花其ノ他鐵道等ノ諸事業ニ關シ苟モ北支ニ於テ日本ノ權利及利益ヲ無視スルカ如キ場合ニハ其ノ内外人何レナルヲ問ハス我方ニ於テ極力之ヲ排撃スル覺悟ナリト夫レトナク警告ヲ與ヘ置キタリ
尙湯及許ハ大規模ニ棉花ヲ改良シ優良品ノ輸出可能トナル場合ニハ日本カ現ニ多額ノ輸入ヲナシ居ル米棉及印度棉ハ顧客ヲ失フニ至リ勢ヒ支那ハ英米ノ怨ヲ受ケ通商上ノ競争ハ惹テ戰爭ヲモ惹起スルカ如キコトナキヤト云フ點迄モ慎重考慮ノ要アリト眞面目ニ語リタルニ付本官ヨリ可然其ノ蒙ヲ啓キ置キタルカ支那人等ノ國際關係ニ對スル不安ト恐怖トニ惱ミ居ル支那一流ノ心理狀態ヲ窺知スルニ足ル一例トシテ蛇足ナカラ申添フ
支、南京、天津、濟南、青島へ轉電セリ

234 昭和10年2月20日 在青島坂根總領事より
広田外務大臣宛(電報)

大東公司の滿州国入国制限活動に対する青島
市政府の対応振りについて

民間ニ對シ實行ノ便宜ヲ有スルヲ以テ過般來之ニ關スル資料ヲ集メ湯ヲ中心トシテ具體案ノ研究中ナルカ資金ヲ外國ニ仰クコトハ現在ノ狀態ニテハ問題ヲ惹起スル(日本ノ經濟侵略等ノ非難)俱アルニ付差當リ財的援助ヲ求メサルモ同事業ニ關スル技術及經營上ノ智識及經驗アル指導者ヲ得ルコト最急務ナルニ付之カ供給方援助ヲ得ハ好都合ナリ北支ニ於ケル棉花地帯ハ現在ニテハ河南、山東、河北ニシテ先ツ河北ニ於テハ戰區内瀋東地方ヨリ初ムルヲ日本トノ協力上都合宜シカルヘク其ノ成績ヲ見タル上漸次之ヲ他地方ニ及ホシ度キ考ナリ現在北支產ノ棉花ニハ河南省靈寶產ノ如キ最優等品ハ六十番手位ノ紡績ニ適スルモノアリ河北產棉ヲ斯ル程度ノモノニ改良スルニハ相當ノ年月ヲ要スヘキモ漸次改良ヲ加フルニ於テハ米棉ノ代替物タリ得ル可能性アリト思惟セララル尤モ支那棉業ヲ保護スル爲ニ二十番手以下ニ適スルモノハ成ルヘク支那紡績ニ供給シ日本ヘハ夫レ以上ノ品質ノモノヲ供給スルカ如キ協定ヲ兩國當業者間ニ締結スルノ必要アルヤモ計ラレス旁技術及經營上ノ「ブレーン」ヲ要スルノミナラス日本當業者方面ノ了解ヲモ必要トスル旨語リタルニ付本官ハ出來得ル限り助力スヘキヲ約シ

青島 2月20日後発
本省 2月20日後着

第一九號

⁽¹⁾ 本官發南京宛電報

第四號

貴電第三號ニ關シ

一、昨年四月ヨリ滿洲國民政部ハ治安維持労働量ノ調節戶籍創設ノ準備移民保護等ノ爲入滿苦力ノ身許ヲ明カナラシメ場合ニ依テハ之カ入國ヲ制限スルノ必要上大東公司(日本人)ヲ作り同公司ヲシテ二十仙ヲ徴收シテ苦力入滿身許證明書ヲ發給セシメ之ヲ携帯セサレハ入國シ得サルコトトシ當地ニモ大東公司ノ支處ヲ設ケテ苦力ノ取締ニ當ラシメタリ

ニ、然ルニ本年二月十二日ヨリ大東公司ハ滿洲國民政部及關東州廳ノ命令ニ依リ身許證明書發給料金ヲ銀一元二引上ケ其ノ形式ヲ整頓スルコトトナリタルカ同十三日以降當地公安局ハ苦力自ラ大東公司ニ赴キテ得タル身許證明書ヲ取上ケ其ノ滿洲國行ヲ阻止スルニ至レリ
三、依テ本官ハ當館警察係官ヲシテ公安局ニ對シテ阻止ノ理

由ヲ尋ネシメタルニ右ハ上司ノ命令ニ依リテ行ヘルモノナルカ理由ハ日本側ニテ充分御承知ノ筈ナリトテ多クヲ語ラサリシ趣ナリ

四、昨年大東公司カ當地ニ於テ事務開始ノ際沈市長及崔外交部視察員ハ本官ニ對シテ大東公司ノ如キ滿洲國ノ機關ヲ公認スルハ其ノ立場上甚タ困却スルノミナラス大連行ノ苦力ニ對シ旅券様ノモノヲ發給シテ之ヲ制限スルハ日支通商條約ニ違反スヘキニ付大東公司ノ撤退方取計ハレタシト申出タルニ依リ本官ハ大東公司ハ單ナル一私人ニシテ專ラ入滿苦力ノ保護ヲ目的トスルモノナル次第ヲ説明シ大連行ト謂フモ結局ハ滿洲國ニ入國スルモノナル以上苦力自身ニ反對ノ意見ナキ限り滿洲國ニ於ケル保護ノ爲身許證明書ヲ一私人タル大東公司ヨリ貰受ケ行クコトニ對シ日支通商條約違反ヲ以テ云爲スヘキ筋合ニアラス從來モ山東ハ滿洲國ヘノ移民多ク從テ客棧始メ滿洲國移民ニ依リテ生活ヲ維持スルモノ極メテ廣範圍ナレハ市政府カ徒ニ神經質ニ動キ過キテ入滿苦力ヲ差止ムルカ如キコトハ支那自體ノ爲ニ採ラサル所ナル所以ヲ懇切ニ説明シ聞カセタルニ兩三回苦力ノ乗船ヲ差止メタルモ其ノ後ハ

別段干涉セス放任的態度ヲ持シ居リタリ

五、⁽²⁾以上ノ如キ經緯ノ後再ヒ市政府當局カ入滿苦力ノ乗船ヲ阻止シタルハ南京政府ノ命令ニ依ルモノナルヤニ認メラレ貴電ノ如ク山東當局カ苦境ニ立チ居レリトセハ斯ル中央ノ命令アリタル結果苦境ニ立チタルモノト想像セサルヲ得ス尙又從來トモ南京政府カ極端ナル排日方針ヲ持シ來レルニ對シ沈鴻烈ハ現地官吏ノ責任者トシテ當地ノ實狀ヲ考慮ニ入ルル以上到底理不盡ナル排日的態度ヲ執リ得ル筈無ク其ノ間常ニ苦シキ立場ニアリタル處本問題モ其ノ一ツノ現レナリト思考セラルルニ付テハ大東公司ノ性質ハ大臣發貴官宛電報第二一號ノ通ナルニ依リ支那側ニ於テ變ニ氣ヲ廻シテ入滿苦力ヲ阻止スルカ如キハ全ク毛ヲ吹イテ疵ヲ求ムルモノニシテ結局支那庶民ノ利益ニ反スルノ結果ヲ招クコト明カナル上斯ノ如キハ畢竟南京政府ニ於テ今以テ排日方針ヲ棄テサルヨリ起ル「ヒツチ」ナレハ此等ノ點ニ付テモ中央ヲシテ一層冷靜ニ判斷セシメ大局ヨリ充分反省セシムルコト肝要ナルヘシト存セラル

冒頭貴電ノ通り轉電セリ

235 昭和10年2月22日 在南京須磨總領事より 広田外務大臣宛(電報)

大東公司の活動を黙認するよう唐有壬へ申入
れについて

南京 2月22日後発
本省 2月22日後着

第一八七號

貴電第二一號及青島來電第四號ニ關シ

廿一日唐有壬ニ對シ本件事情ヲ説明セル上中央ヨリ入滿山東苦力ノ乗船ヲ差止ムルカ如キ命令ヲ發セリトセハ面白カラスト嚴重注意ヲ喚起セル處唐ハ實ハ客年來數回沈鴻烈及韓復榘ヨリ滿洲國機關ト異ナラサル同公司ノ行動ハ認メ難キニ付中央ヨリ日本側ニ掛合ハレ度シト申出來レルヲ以テ外交部ヨリハ北平政務委員會ニ措置方移牒セルカ最近殊ニ同公司ノ活動顯著トナレル趣ヲ以テ更ニ願出アリタルニ付御相談セル次第ナリ實ハ山海關ニ於テモ同様ノ事態發生セルモ同地ハ目立タサルニ付放任シ居タリト答ヘタルヲ以テ本官ヨリ冒頭電報ノ御趣旨ニ基キ同公司ノ性質及本件經緯ヲ説明シ此ノ上問題トセサルヘキ様説示セル處唐ハ更ニ考

慮致度シト述ヘタリ

支、北平、青島、滿へ轉電セリ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

236 昭和10年3月23日 在天津川越總領事より 広田外務大臣宛(電報)

山海關での中国人労働者に対する滿州国側の
入国管理措置について

天津 3月23日後発
本省 3月23日後着

第六二號

⁽¹⁾近來山海關ニ於テ支那人労働者ハ滿洲國官憲ノ爲入國ヲ阻止セラルルモノ多ク之カ爲同地ハ極メテ混雜シ居レルカ如ク傳ヘラルル處右ハ滿洲國側ニ於テ本年度入國支那苦力ヲ四十四萬人ニ制限シ且最近ニ至リテハ(一)集團の募集セラ
ル苦力ノミヲ限リ(二)個々ニ入國スル商業労働者ハ一切入
國ヲ許ササルコトナリ右(二)ニ對シテハ入國證明書ヲ發給
セサル様本月十四日附ヲ以テ滿洲國軍政部及關東軍司令部
ヨリ當地大東公司ニ命令シ來リシヲ以テ爾來(二)ニ屬スルモ

ノハ證明書ヲ入手シ得ス或ルモノハ證明書制度ヲ知ラス漫然例年ノ如ク春先ノ季節ニ乗シ當方面ヨリ奉天行通シ切符ニ依リ乗車シ山海關ニ於テ入國ヲ阻止セラルルニ至リシ爲ニシテ其ノ數ハ今日迄ノ處約五百人(入國者ノ約一割ニテ新聞等ニ傳ヘラルル如ク多カラス)ナリ

然ルニ右ニ依リ最迷惑ヲ受クルハ入國不能ノ者ノ爲山海關以東ノ乗車賃割戻ヲ餘儀ナクセシメラレ居ル北寧鐵道ニテ同局長ハ一般乗客ノ爲入滿労働者ハ先方ノ制限ニ依リ一定ノ證明書ヲ携帶スルヲ要シ之ヲ所持スル者モ甚タシキ貧困者ハ尙入滿ヲ阻止セラルルコトアルヲ以テ出關旅客ハ特ニ注意ヲ要スル旨告示スル一方中央及北平政務ノ委員會ニ日本側ノ措置ヲ不當トシ實情ヲ報告シ居レルカ如シ(當方面支那側ノ大東公司ニ對スル態度ハ機密第一四二號往信參照)尙本件ニ關シ二十二日ノ大公報ハ日本ハ滿洲ニ於ケル日本資本家側ノ希望ヲ顧慮セス支那苦力ノ入滿ヲ阻止ス之レ日本自體ノ對滿移民政策ニ依ルコト明カナルモ日本側募集者等ノ方法ニモ改ムヘキモノ鮮カラスシテ支那人ハ或ハ同族間ノ往來ヲ拒マレ或ハ多年仕來レル正業ヲ奪ハルル等人道問題ヲ惹起シ居ル實情ナルヲ以テ支那官憲ハ從來ノ傍

何等秘密結社ノ組成ヲ計畫シ之ニ依リテ黨組織ノ特殊工作ヲ行ハントスル模様ナリトノコトナリ

尙要人ノ語ル所ニ依レハ河北省政府ノ保定移轉ハ最近其ノ實現ヲ見ルヘシト傳フル向有ルモ實ハ何應欽カ右移轉ニ極力反對シ居リ既ニ二回程蔣介石ヘ之ヲ進言シ同時ニ張廷鏞^{（譯）}ノ特別市長就任ニモ絶對反對ノ意嚮ヲ表明シ居レルカ蔣ハ右建言ニ對シ一應ノ理窟有リトノ支持的所見ヲ附記シテ黃郛等ヘ廻シ之カ爲特ニ黃郛、汪精衛ヲ腐ラセル^{（譯）}居レル始末ナリ右ノ實情ナルニ依リ本件實現ハ仲々容易ナラサルヘシトノコトナリ

支、北平、南京、青島、濟南、廣東、漢口ヘ轉電セリ
支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

238 昭和10年4月18日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

黃郛が最高顧問として蔣介石に随伴すること
になるとの殷同北寧鐵路局長内話について

南京 4月18日後発
本省 4月18日後着

觀主義ヲ改メ日本側ニ代リテ労働者ヲ募集スル等何等カ妥協方案ヲ得ル様日本側ト折衝スヘキナリト論シ居レリ
支、北平、南京、青島、濟南、芝罘ニ轉電セリ
支ヨリ上海ニ轉報アリ度シ

237 昭和10年3月26日 在天津川越總領事より
広田外務大臣宛(電報)

華北党部の裁撤計画など蔣介石の華北問題への
対処振りに関する情報について

天津 3月26日後発
本省 3月26日後着

第六七號

某要人カ極秘トシテ永井ニ語ル所ニ依レハ蔣介石カ徐道隣ノ「敵乎友乎」ナル論文ヲ以テ對日外交轉換ニ關シ主トシテ國內輿論ヲ探ル等相當對日態度決定ニ腐心シ居レル次第ハ御承知ノ通ナルカ蔣ハ今般熱慮ノ結果北支黨部ノ裁撤ヲ實行スルコトナリ既ニ北平首腦部方面ヘ内命越セリ右ハ勿論日本ノ意嚮ヲ迎ヘ所謂日本ニ對スル誠意ヲ表明セントスルモノナルカ一方蔣介石ハ右ノ黨部裁撤ト共ニ極秘裡ニ

第三八六號

往電第三八〇號ニ關シ

本十八日殷同來訪本官ニ對シ先般莫干山ニテ會見ノ際黃郛ハ暫ク辭養ノ要アレハ辭職シ度シト述ヘタルニ付自分ヨリ辭職ハ思ヒ止リ是非共蔣介石ノ最高顧問トシテ常時蔣ニ隨伴スルコト然ルヘキ旨申述ヘタル處同意ノ體ニ見受ケラレタルヲ以テ來寧後汪兆銘ニモ右ノ次第ヲ傳ヘタルニ汪ハ黃郛ヲ何レハ外交部長ニ任命シ度キ希望ナリシカ本案モ結構ニテ蔣介石ニモ異存無カルヘシト答ヘタリト内話セルカ張志潭ノ再起覺束無キ今日北平政務整理委員會ハ殷同等ニ於テ指導シタキ心組ナルヤニ見受ケラレタリ
支、北平、滿ヘ轉電セリ

239 昭和10年4月22日 在中国若杉大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

華北における日中經濟提携や自身の訪日計画
に関する殷同の内話について

北平 4月22日後発
本省 4月22日後着

第一一四號

般同二十日歸平シタルニ付二十一日清水ヲシテ訪問セシメタル處同人談話ノ中御參考トナルヘキ點左ノ通

一、最近南方ニ於ケル日支間ノ空氣ハ大分緩和セル様見受ケラレ兩國當局者ノ工作カ心理的ニ相當ノ影響ヲ與ヘタルコトハ事實ナリ更ニ宋子文等ノ所謂歐米派ノ策動ハ日支關係ヲ邪魔スルト謂フヨリモ寧ロ本人等將來ノ政治的地盤ヲ固ムル爲奔走シ居ルモノト解スル方眞實ナルヘシ

二、黃郛ノ進退ニ付テハ(南京發貴大臣宛電報第三八六號ト同様)談話ヲ爲シタル後黃ハ事情若シ意ノ如クナラサレハ全然隱退スヘク然ラスシテ積極的ニ乗出シ得ル立場トナラハ寧ロ蔣ノ側近ニ居リテ建策スルコトトナリ重慶邊り迄赴クヘク何レニスルモ當分ハ歸平セサルヘシ

三、滄石鐵道ニ關シテハ須磨總領事ヨリ華昌ノ權利ヲ無視スヘカラサル旨話アリ(南京發貴大臣宛電報第三八七號參照)自分モ右權利ヲ認メサル次第第二ハ非サルモ(此ノ點殷同モ大分折レ來レリ往電第四九號參照)愈之ヲ建設スル場合ニハ我方ヨリ直接華昌ト話合ノ上具體案ヲ樹テ度從テ華昌ノ了解ヲ得レハ或程度迄前契約ニ變更ヲ加フルコ

トトナルヘキカ須磨總領事ノ話モマサカ契約其ノ儘ヲ實行セヨトノ意味ニハ非サルヘシ(右ニ對シ清水ハ我方トシテハ飽迄華昌ノ權利ヲ主張スル次第ナリト述ヘ置キタル趣ナリ)

四、(滄石鐵道及龍烟鐵鑛(往電第一二三號參照)ニ關スル談話ヲ終リタル後)自分ハ北支開發ノ理想案トシテ支那側ヲシテ開發會社トモ言フヘキ一種ノ財團ヲ作ラシメ之ヲ中心トシテ經濟的建設ヲ行ヒ資本技術等ノ及ハサル點ニ付テハ日本側ノ援助ヲ仰クコト最有效適切ナリト思惟スルモノナルカ夫レハ暫ク措キ要スルニ一般的ニ日支經濟提携ニハ(一)成ルヘク支那ノ自力更生ヲ建前トシテ之ニ日本側ノ助力ヲ仰クコト(二)之カ爲ニハ第三者ノ介入ヲ避ケ主トシテ當業者間ノ協議ニ依ルコトノ二大方針ヲ基礎トスヘキモノナリト思考シ居レリ

五、自分ハ觀光會議出席ノ爲東方旅行社經理張水淇其ノ他北寧鐵路局員等數名ヲ同伴二十六日當地發往復約一箇月ノ豫定ニテ渡日スル次第ナルカ日本ニ於テハ各方面ノ文士ト接觸シ充分意見ノ交換ヲ遂ケ度キ所存ナリ

支、南京、天津ニ轉電セリ

240 昭和10年4月26日

在天津川越總領事より
広田外務大臣宛(電報)

長城方面における銀密輸出取締につき天津市

政府より我が方の協力方要請について

天津 4月26日後発
本省 4月26日後着

第九九號

支發本官宛電報第五號ニ關シ

四月二十五日張天津市長ハ顧問孫潤宇ヲ當館ニ派遣シ今般財政部ヨリ同市長宛天津租界及戰區ノ日支不良分子等共謀ノ上長城ヨリ銀ノ密輸ヲ計リ居レル由屢密報ニ接シ居レルニ依リ之カ取締ニ關シ四月十九日有吉公使ニ協力方要請セルニ同公使ハ同情ヲ表シ關係方面ヘ査禁方電命サレタルニ付テハ天津總領事ト右密輸防止方ニ付商議スヘシトノ電訓アリタル處天津港ハ海關ノ取締嚴重ナルニ依リ問題無キモ長城方面ニ付テハ取締モ困難ナルニ付出來得ル限り御援助願度シト懇請越セリ

右ニ對シ本官ハ本件ハ理論上ヨリ之ヲ見レハ支那側累次ノ公布ニ係ル銀ノ搬運ヲ制限又ハ禁止セル海關告示ハ邦人ニ

對シ何等拘束力無キモノナルニ付假ニ邦人カ之ニ違背スル行爲アリトスルモ我方トシテ處罰等ノ手續ヲ執リ得サルコト御承知ノ通ナルモ銀問題ニ伴フ支那側近時ノ財政經濟金融ノ混亂不安ハ寔ニ同情ニ堪ヘサルノミナス斯ノ如キ事態ハ延イテ我方對支通商上ニモ禍害ヲ及ホスノ惧無シトセス殊ニ最近有吉公使ヨリ來訓ノ次第モアリタルニ依リ當方トシテハ出來得ル限り本件支那側措施ニ對シ精神的支援ヲ與ヘルニ吝ナラサル意嚮ナリト答ヘルト共ニ抑々支那近來ノ銀逼迫ハ米國ノ銀恐慌ニ依ルコト勿論ニシテ北支方面ニ於ケル銀流出ノ防止策ノ如キハ寧ロ枝葉ノ問題トモ言ヒ得ヘキ次第ナル處支那政府トシテ米國ニ對シ如何ナル要請ヲ持出サレ之ニ對シ米國ハ如何ナル態度ニ出テ居ルヤ本件ニ關シ前記ノ如キ意嚮ヲ有スル我方トシテハ此ノ邊篤ト承知致度キ次第ナリト申入レ置ケリ

支、北平、南京、青島ヘ轉電セリ

241 昭和10年5月14日

在天津川越總領事より
広田外務大臣宛(電報)

山海關方面から長城外への銀持出し自重方

留民に対し諭告發出について

天津 5月14日後発
本省 5月14日後着

第一一五號

支那側ノ銀取締ニ關スル腐心振ハ屢電ノ通ナル處此ノ間鮮人ノ山海關方面ニ於ケル銀持出及當地發券銀行ニ對スル兌換請求ハ集團的トナリ屢稅吏トノ間ニ紛爭ヲ醸シ居レルカ天津海關ハ九日附ヲ以テ財政部護照ヲ有セサル限り天津ヨリ山海關ニ向フ鐵道旅客ノ攜帶銀ヲ二十元ニ制限シ(從前ハ五十元)又出關スル旅客ニ關シテハ一切之カ攜帶ヲ禁止ストノ佈告ヲ發スルト共ニ差當リ天津驛ニ於テ北寧鐵路局ト協同シテ一般旅客ノ攜帶銀検査ヲ開始セリ右天津驛ニ於ケル検査ニ關シテハ事前謀知セルニ依リ豫メ支那側ニ注意ヲ與フル一方更ニ二十三日海關當局ニ對シ邦人ニ對スル右検査ノ強制ハ我方ノ容認スル所ニ非サル旨嚴重抗議シ置ケリ本問題ニ對スル當方態度ハ屢次往電ノ通ナルモ本件鮮人關係ノ紛擾ハ當地ニ於テハ特ニ兌換監視(往電第一〇六號)實施以來盛トナリ(兌換請求ハ支那人筋絶滅シ目下鮮人ノ獨舞臺ナル由)居ルヲ以テ當地及山海關等ニ於テ更ニ事端ヲ

滋生スルノ感無シトセス一方頻々タル銀ノ持出ハ延テ在留邦人ノ經濟活動ニモ諸般ノ禍害ヲ及ホスノ虞アリ從テ通貨ノ外流ヲ助長スルカ如キ所爲ハ好マシカラサルニ付右趣旨ノ下ニ五月十四日附ヲ以テ在留民自重方諭告ヲ發セリ中國銀行當局ノ談ニ依レハ現在同行ニ於ケル兌換請求ハ專ラ鮮人ニ限ラレ毎日人數二三十人金額合計五千元位交通モ略同額他銀行ハ僅少ニシテ兌換風潮ハ稍漸減ノ趨勢ヲ示シ居レル由ナルカ當方トシテハ右諭告ニ拘ラス今後モ此ノ種鮮人ノ所爲續行セラルルニ於テハ更ニ適當ナル方法ニ依リ之ヲ抑止スル方針ナリ

支、北平、青島、漢口、廣東、福州、南京、厦門、滿ハ轉電セリ

支ヨリ上海ヘ轉報アリ度シ

242 昭和10年5月15日 在中国若杉大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

河北省政府の保定移転取消しの事情について

北平 5月15日後発
本省 5月15日後着

第一三二號(極秘扱)

十四日袁良本官來訪ノ際袁カ過日南下ノ節政府筋ヨリ確聞スル處ニ依レハ河北省政府ノ保定移轉ハ曩ニ中央ヨリ發布セラレタル同移轉命令ヲ取消スコトナク事實上有耶無耶ニ移轉ヲ見合セ天津ニ居据ハルコトニ決定セル趣ナルカ元來本件ハ曩ニ日本側ト于學忠トノ關係ヲ考慮シ黃郛等カ于ノ更迭ヲ主張シタルニ對シ蔣介石及張學良相談ノ結果于ヲ其ノ儘トシテ省政府ヲ移轉セシムル案ヲ立テ黃郛ヲシテ同意セシメタルモノニシテ何應欽モ當初ヨリ同案ニ反對ナリシ處今同于學忠カ漢口及南京方面ヲ歴訪ノ際張學良ニ泣ツキ其ノ勢力ニ依リ南京政府ヲ動カシテ前記ノ如ク内定セルモノナル趣ニテ于學忠カ過般南方ヨリ歸任以來俄ニ強硬ノ態度ヲ持スルニ至レルヤノ噂アルモ畢竟右ノ事情ニ基クモノナルヘシト言フ

尙客年末以來河北省政府ノ日本側トノ關係改善ノ爲^{備註}平津日本人係主任ノ職ヲ辭シ河北省外交處長トナレル祝惺元カ最近本官ニ語レル處ニ依レハ同人ハ過去數箇月間百方省政府ト日本側トノ接近ニ努力シタルモ于學忠側近ノ者ハ依然トシテ東北系ヲ以テ固メラレ到底改善ノ見込無キヲ以テ遂

ニ匙ヲ投ケ省政府外交處長ノ職ヲ辭シ再ヒ當地ニ歸來セル趣ナリ

御參考迄

支、南京、天津ニ轉電セリ

編注 「？」の部分に「態々北平市ノ」と挿入するよう訂正

電報あり。

243 昭和10年5月28日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

黃郛が于學忠河北省主席の他省への移転を蔣介石に進言し自らも駐平政務整理委員会委員長辭任を決意との情報について

南京 5月28日後発
本省 5月28日後着

第五一五號(極秘)

本廿九日許卓然(本日本上海ヨリ歸寧)來訪内話セル所左ノ通り
北支航空問題ニ關シ蔣介石ハ日支合辦會社設立位ニテ片付

ケ度キ意嚮ニ見受ケラレタルモ朱家驊等交通部當局者カ強ク反對セル爲困難ナル状態トナリタリ又蔣ハ既ニ二度迄モ(最近ハ廿四日)張學良ニ對シテ學忠ノ至急保定移轉方電報セルモ效果ナク却テ數日前于ヨリ中央ニ宛テ關東軍ハ天津ニ於ケル新聞記者殺害事件、孫匪等ヲ口實トシテ天津ニ入リ兼ネマシキ氣配ヲ示シ居ル處之ニ對シテハ死力ヲ盡シテ抵抗スルノ外ナシト電報越セル有様ナリ黃郛ハ事態容易ナラスト認メ廿六、七日ノ兩日ニ亘リ蔣ニ對シ時局ハ于ノ保定移轉ノミニテハ緩和セサルヘシト電報シ暗ニ于ノ他省移轉ヲ勸ムルト同時ニ自身モ愈々本、兼職ノ辭任ヲ決意シ廿七日汪兆銘ト會見ノ際辭意ヲ表示セリ右ニ對シ汪ハ北支問題ノ處理ニ當リテハ一致負責ノ方針ナリト述ヘ慰留セルモ結局黃ハ今明日中ニ國民政府ニ對シ辭職許可ヲ呈請スルコトトナルヘシ但シ上海ニハ暫ク留マル模様ナリ黃郛トシテハ若シ于ノ下野カ實現セハ商震若ハ王克敏ヲシテ専ラ事ニ當ラシメ度キ意嚮ノ如シ

支、北平、天津、滿ヘ轉電セリ

245 昭和10年6月25日 在中国有吉大使より
広田外務大臣宛(電報)

華北における我が国軍人の活動が日中關係に
及ぼす悪影響を黄郛懸念について

上海 6月25日後発
本省 6月25日後着

第五一七號(館長符號抜)

二十四日黃郛カ有野ニナセル談話中御參考迄左ノ通
一、今回ノ北支事件ノ結果ニ對シ自分(黃)カ日支將來ノ大局ヨリ觀察シテ最モ遺憾ニ考フルコト二點アリ其ノ一ハ事件ノ解決條件トシテ北方ニ於ケル中央ノ二箇師、憲兵、政治訓練部等凡ユル中央所屬機關ノ撤退ト謂フカ如キ苛酷ナル條件受諾ヲ餘儀無クセラレタルコトニシテ就中中央二箇師(規律最モ正シク策動等ノ事實絕對ニ無シト謂フ)ノ撤退ハ自分等ノ如キ中央派遣者ニ對スル對内的「バック」ヲ挽上ケタル次第ナルト同時ニ北支一帯ヲ第二ノ非武装地帶化シタルモノニテ支那内政上ノ安定ヲ困難ニシ穩健ナル國民ニ對シテモ深刻ナル反感ヲ與ヘ殊ニ日本ノ求ムル所カ正當公平ノ程度ヲ超ヘ此ノ上更ニ那邊

244 昭和10年6月22日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

河北省主席に商震任命を決定したとの唐有壬
内話について

南京 6月22日後発
本省 6月22日後着

第六一九號(部外秘)

貴電合第四九〇號ニ關シ

廿二日唐有壬ハ絕對極秘ノ含ヲ以テ本官ニ對シ黃郛ノ辭職ニ伴ヒ自然王克敏カ政務整理委員會委員長ナルヘキカ尙未タ王ノ同意ハ取付ケ居ラサルモ同人ヲシテ北平市長ヲ兼ネシメ袁良ハ天津市長ニ轉任方考慮シ居レリ日本軍部ハ王ヲ省政府主席ニ任命方希望シ居ル模様ナルモ商震ヲ主席トスルニ決定セリト内話セリ

軍側ヨリハ從來商震ニテハ代リ榮エセスト申入レ居タル様子ナルカ冒頭貴電ノ次第ニ依ルモノカ同日雨宮武官ハ右ニ付本官ニ對シ形勢ヲ注視スルコト致スヘシト語り居タリ御參考迄

支、北平、天津ニ轉電セリ

迄及フヘキカヲ疑ハシメ著シキ不安ヲ與ヘタルコトナリタルコトナリ

二、次ニ殷同ニ關スル件ナルカ同人ハ自分ノ部下トシテ又日本軍部トノ最善キ聯絡者トシテ既往ニ於ケル功績者ナル處六月四日歸國前(一)神戸ニテ日本新聞記者ニ對シ北支事件ハ小問題ニテ大局ニ影響無シトノ趣旨ヲ發表シタルハ事件ヲ輕視シタルモノナルコト(二)着滬早々長文電報ヲ蔣介石ニ打チ日本中央政府特ニ軍中央部ニテハ寛大ナル意見ナルニ付事件ハ餘リ重大視セヌ様トノ報告ヲ爲シ(三)尙日本軍部中央ト出先及外務軍部間ノ離間ニ努メタルコト等ノ嫌疑ニテ(一)ハ國民的反響ヲ惧レタル爲ニテ惡意アリシニ非サルコトヲ殷ヨリ當地武官側ニ辯明シタル次第及(二)(三)ハ事實無根ナル旨辯明ス(當地武官側ノ忌避ヲ受ケ更ニ同人北上後ハ酒井高橋等ノ武官ヨリ面會謝絶ヲ言渡サレ全ク活動ヲ封シラレ進退ニ窮シ居ル次第ナルカ
右ノ如キハ一般同ノ問題ニ非ス將來此ノ種親日系日本出身者ノ活動ヲ躊躇セシムル結果トナリ全般ニ與フル影響鮮ナカラス
三、要スルニ今回ノ事件ハ解決條件其ノモノノ當否ハ別トス

ルモ間接ニ支那國民ニ與フル日本ノ態度ニ疑念ヲ深メタル惡印象ト日支ノ連鎖トシテ努力セル日本系出身者ヲシテ悲哀ト絶望トヲ感セシメタル點ニ於テ今後ノ兩國關係ノ改善工作ニ惡影響ヲ與ヘタルコトヲ遺憾ニ考ヘ居レリ云々

黃ハ一兩日中ニ來滬ノ張群ト會見ノ上月末頃ヨリ莫干山ニ引籠ル積リナル由語リタル趣ナリ

編 注 本電報は国立国会図書館憲政資料室所蔵「憲政資料」

中の「牧野伸顯關係文書」より採録。

246

昭和10年6月25日 在中国若杉大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

駐平政務整理委員会委員長代理に就任した王

克敏が抱負等内話について

北平 6月25日後発
本省 6月25日後着

第二〇六號

黃郛辭任申出ノ爲當地政務整理委員会委員長代理ニ任セラ

平和裡ニ兩國關係ヲ打開セントスル一派ト然ラサル一派トアリ今ノ處親日政策ヲ執ル一派ノ勢力強キ模様ナリ

今回ノ事件ハ殊ニ北方ニ於テ一般民衆ニ左程ノ衝動ヲ與ヘタリトモ見エス國民黨部ノ撤廢ノ如キハ寧ロ喜ハレ居ル模様ナルカ何レニスルモ從來支那側ハ言フコト爲スコト虚偽ニ亘ルコト多カリシ憾アリ今後ハ總テ直截簡明ニ眞實ヲ語リ眞實ヲ行ヒ兩國ノ親善關係ヲ増進シ地方ノ安定ヲ計ルコトト致度シ

丙、上海方面ノ金融界モ二千萬元ノ救済公債發行ニテ急場ヲ凌キ大体維持セラルル模様ナルカ之ヲ全國的二見テ財界ノ狀況ハ全ク安心シテ可ナル狀態ニハアラス尤モ此ノ際一部ノ不良銀行及銀號カ一渡リ整理セラルルコトハ却テ金融界ノ爲トナルヘシ只銀ノ密輸ハ最心配ニ堪ヘサル所ニテ南京ノ中國銀行經理吳震脩モ特ニ平津地方ニ於ケル密輸狀況視察ノ爲自分ト共ニ來平シタル程ナルカ本件取締ニ付テハ此ノ上トモ日本側ノ援助ヲ受ケタシ(吳震脩ハ袁市長ヨリ銀密輸ニ關シ朝鮮人取締ニ付當館ノ協力ヲ多トスル旨ノ詳報ヲ得タル趣ニテ特ニ本官ヲ來訪謝意ヲ述ヘタリ)

レタル王克敏ハ廿三日歸平シタルヲ以テ廿四日清水ヲシテ往訪セシメタル處其ノ談話ノ中御參考トナルヘキ點左ノ通一、黃郛ノ北上又ハ内政部部长就任ハ當分望ナク再ヒ莫干山ニテ休養スルコトトナルヘク何應欽モ暫ク北上ヲ見合スモノト察セラレ

二、自分ハ老齡且事實兩眼ノ明ヲ失ヒ到底劇職ニハ堪ヘ難キモ此ノ難局ニ際シ已ムヲ得ス政。整。會。委員長代理ノ仕事ヲ引受ケタルモノニシテ飽迄黃委員長ノ代理ニ過キス何等新ナル權限ヲ附與セラレタル譯ニ非サルヲ以テ例ヘハ河北察哈爾兩省主席及天津市長等ノ人選問題ノ如キモ總テ中央ノ決定ヲ俟ツ外ナキ次第ナリ右人事問題ニ關シテハ少クモ自分南京出發迄ハ中央ニ於テ何等決定セル旨ヲ聞カス

三、軍事分會及政整會ハ何レモ遠カラス廢止ノ運命ニアル様見受ケラルルカ政整會ノ如キハ相當多數ノ職員ヲ擁シ居ルヲ以テ之カ始末ヲ附ケル迄ニハ少クトモ一、二箇月ヲ要スヘシ

四、今次ノ華北問題ニテ南京ニ於ケル對日感情ハ多少惡化セル様見受ケラレタルカ政府部内ニハ元來日本ト妥協シテ

支、南京、天津へ轉電セリ

247 昭和10年6月28日

在中国若杉大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

豊台において中国兵による反乱事件発生について

北平 6月28日前発
本省 6月28日後着

第二一六號(大至急)

廿八日夜半北平ノ西南十九軒北寧線上豐臺ニ於テ支那兵ノ衝突起リタル處右ハ豐臺ニ於ケル五十一軍ノ裝甲車隊ニ于學忠ノ殘黨ト目セラルル數十名ノ支那人便衣隊押入りテ其ノ退去ヲ(強要)シ遂ニ裝甲車二臺ヲ占領シ百數十名之ニ搭乘シテ北平永定門外迄前進セル由ニテ午前二時以來北平市ニ戒嚴令布カレ天津トノ列車目下不通トナレリ右事件ニ數十名日本人アリトノ報道アリタルモ軍事分會ニ於テハ右報道ヲ否定シ居レリ當地駐屯ノ我歩兵隊ハ支那内亂ノ渦中ニ捲込マルルコトヲ避クル方針ニテ軍事分會ト了解ノ上單ニ少數ノ兵ヲ私服ニテ現地ニ派シ偵察セシメ

且北平郊外南苑ニ置キアル我軍飛行機ノ保護ヲ爲ス筈

目下ノ處市内平穩ナリ

尙高橋武官ノ語ル所ニ依レハ目下來平中ノ土肥原少將トモ相談ノ上我方ニ於テハ絕對ニ渦中ニ投セサルコトトシ支那側(商震及萬福麟軍)ノ鎮壓ニ任ス方針ノ趣ナリ
支、南京、天津、青島、濟南、漢口、福州、廣東、張家口ニ轉電セリ

248 昭和10年6月28日 在中国若杉大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

豊台における中国兵反乱事件の続報について

北平 6月28日後発
本省 6月28日後着

第二一九號(至急、極秘)

往電第二一六號ニ關シ

當館ノ得タル情報ニ依レハ本件ハ元吳佩孚ノ部下ナル白堅武等カ豫テ内通シ居リタル于學忠軍ノ裝甲車隊ト結託シ事ヲ起サントセルモノナルカ軍事分會ニ於テハ先日來土肥原少將在平中ナルニモ鑑ミ何事カ勃發スルヤモ計ラレスト百方警戒中右ノ事實ヲ探知シ廿七日夜萬福麟部隊所屬ノ便衣

隊數十名ヲ豐臺ニ派シ取押ヘントシタルニ端ヲ發セルモノ

ノ由ニテ右ノ叛徒ト合流セントシタル殷汝耕管下ノ保安(隊)約二千五百ハ右ノ如ク軍事分會ニ先手ヲ打タレタル爲本件ニ參加スルニ至ラサリシ趣ナリ

前電補足旁御參考迄

(絕對部外極秘)

支、南京、天津へ轉電セリ

249 昭和10年6月29日 在中国若杉大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

豊台における中国兵反乱事件鎮圧について

北平 6月29日後発
本省 6月29日後着

第二二二號

往電第二一六號ニ關シ

公安局長ヨリノ通報ニ依レハ支那軍憲ニ於テ廿八日午前十一時迄ニ叛徒四十名ヲ逮捕シ武裝ヲ解除シ監視中ナルカ殘餘ノ叛徒ハ停戰區域方面へ逃走シタル趣ナリ

北平市ノ戒嚴ハ同日午後ヨリ緩和セラレ市内平常ト變リ無

シ但シ夜間ハ警戒ヲ嚴ニセリ尙豐臺附近モ平靜ニ歸シ不通ナリシ平漢、平綏、北寧各鐵道モ同日午後ヨリ順次開通シ事件ハ一先ツ落着セルモノト觀測セラレ

支、南京、天津、青島、濟南、漢口、廣東、福州、張家口、滿へ轉電セリ

250 昭和10年6月30日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

華北での經濟提携を推進したき旨許卓然駐平

政務整理委員会委員が提案について

南京 發
本省 6月30日後着

第六六三號

廿九日許卓然來訪本日何應欽ヲ加ヘタル四主席ノ會合モアレハ御意見ヲ伺フ次第ナリト前提シ日本軍部ハ滿洲國ノ正式承認ヲ支那側ニ要求スヘシトノ聞込アル處支那側從來ノ遣口ニハ遺憾ノ點アルモ今直ニ同國ヲ承認スルハ不可能ニ付先ツ北方ニ於テ經濟合作ヲ實現スルコト然ルヘシト存ス實ハ約八箇月前上海一英商ノ紹介ニ依リ某英國事業家來平

シ平綏鐵路管理局長沈昌ニ對シ投資希望ヲ申出テタルモ沈ハ先ツ「カドガン」ニ相談シタシト應酬シ其ノ儘トナレル經緯アル處張家口ヨリ秦皇島ニ至ル鐵道建設ヲ王克敏ヨリ中央ニ具申シ鐵道部カ全權ヲ沈ニ委任スルノ形式ヲ採リ日支合作ヲ企畫シ之ヲ端緒トシテ行々ハ兩國經濟同盟ニ迄モ漕附ケ滿洲國承認問題ノ發生ハ之ヲ避ケ度シト述ヘタルヲ以テ

本官ヨリ支那側カ懸案ノ解決ヲ怠リ日本側ノ要求ニ依リ澁々實行スルカ如キ態度ヲ持スルハ大局ヲ過ル所以ナリト指摘セル上北支ニ於ケル合作ハ當然支那側ノ行フヘキモノナレハ是ヲ實行セリトテ日本側要求ヲ避ケ得ヘキモノトハ思ハレス合作ヲ北支ニ於テ經濟合作ニ限ルコト無ク全面的日支合作及懸案ノ解決ニ迄押進メサレハ支那ノ誠意ニ付辯護ノ仕様モ無キ次第ナリ又右鐵道計畫ハ結構ナルモ現在滄石鐵道ニ關聯シ我方カ契約上正當ナル權利ノ實行方繰返シ要求シ居ルコトヲ忘ルヘカラスト述ヘタル處許ハ右趣旨ハ早速張群陳儀等ニモ申傳フヘシト答ヘ引取レリ
尙同日陳儀及李十一ハ雨宮武官ト會談ノ際日支親善ノ爲支那側ヨリ先手ヲ打チ度シト語レル趣ナリ

支、北平、天津へ轉電セリ

251 昭和10年7月6日 在天津川越總領事より
広田外務大臣宛(電報)

豊台における中国兵反乱事件に關与した邦人の処分について

天津 7月6日後発
本省 7月6日後着

第一八三號

往電第一七六號ニ關シ

豊台兵變ニ參加セル邦人十五名中二名ハ滿洲國方面ヨリ渡來セル者ニシテ一名ハ事件直後滿洲へ逃走他ノ一名ハ當館ニテ取押へ取調ヘタルニ容疑ノ點充分ナルモ的確ナル證據無キニ付釋放セルモ(滿洲ニ歸還セリ)爾餘ノ十三名中當館ニテ逮捕セル者七名通州支那官憲ニ逮捕セラレ北平我方憲兵隊ニ引渡シ更ニ當地憲兵隊ヲ通シ當館ニ押送シ來レル者六名ニシテ當館ニテ嚴重取調ノ結果彼等ハ何レモ當地在留者ニシテ主犯瀧口民三八冒頭往電白堅武等ノ計畫ニ關與シ藤木セイケン其ノ他ヲ勸誘參加セル事實判明セルヲ以テ五

252 昭和10年7月6日 在承德中根(直介)領事代理より
広田外務大臣宛

關東軍の意を受けた滿洲航空会社による承德を根據地とする新航空路開設計画について

公機密第二四〇號 (接受日不明)

昭和十年七月六日

在承德

領事代理 中根 直介

外務大臣 廣田 弘毅殿

件名

一、滿洲航空會社ノ蒙藏航空路線開設計畫ニ關スル件
本件ニ關スル在滿大使宛七月六日附公機密第三三二號公信
寫御參考迄ニ送付ス

公機密第三三二號

昭和十年七月六日

在承德

領事代理 中根 直介

在滿洲國

日附ヲ以テ瀧口ヲ在留禁止三年ニ藤木ヲ同二年ニ處シ重枝綠郎外八名(中鮮人二名)ニハ諭旨退去ヲ命シ他ノ二名中情狀最モ輕キ一名ハ嚴重訓戒ヲ加フルニ止メタルカ

(2) 志村省三八首謀者ノ一名ナルモ元民會議員ニシテ當地東亞醫院ニ醫師トシテ(陸軍一等軍醫)勤務シ居リ今回ノ事件ニ付深く前非ヲ悔ヒ居ルニモ顧ミ特ニ本人ノ地位ヲ考慮シ將來本業ニ專念シ一切ノ政治的運動ニ關與セサル旨ノ誓約書ヲ提出セシメ且田村東亞醫院長ノ保障ヲ徵シタル上行政處分ヲ猶豫スルコトトセリ

尙志村ヲ會長トスル北支青年同盟ハ客年三月成立四月當館ニ於テ許可ヲ與ヘタルモノナル處其ノ後設立本來ノ趣旨ヲ逸脱シ會員中種々面白カラサル越軌行動ニ出ツル者アリ今回ノ事件ニモ會長志村、瀧口(顧問)外會員二名關與セルニ顧ミ六日附ヲ以テ同盟ノ解散ヲ命シタリ

如上處置ニ關シテハ當地駐屯軍司令部ト打合セ濟支、北平、南京、滿へ轉電セリ

特命全權大使 南 次郎殿

滿洲航空會社ノ蒙藏航空路線開設計畫ニ關スル件

關東軍ヨリ德主ニ對シ飛行機贈呈ノ次第ニ關シテハ本月六日附公機密第三三二號拙信ヲ以テ及報告置タルカ滿洲航空會社ハ關東軍ノ意圖ヲ承ケ右飛行機贈呈ヲ端緒トシテ資本金三百萬元ヲ以テ同社ノ姉妹會社タル滿蒙合辦蒙古航空會社(假名)ヲ設立シ承德ヲ根據地トシテ百靈廟、包頭等西部內蒙古一帶ハ勿論新疆、青海、西藏方面ニ亘ル定期航空路線ヲ開拓セムト目論見當地都市計畫ニ依ル飛行場移轉ノ機會ニ快速機多數ヲ收容スヘキ格納庫ヲ本年九月迄ニ新築スルコトニ決定セル趣ナリ

右ハ滿洲航空會社當地出張所主任ノ本官ニ對スル談話ノ大要ナルカ中華民國包圍政策ハ陸軍、特ニ關東軍中堅將校等ノ總意トモ謂フヘク最近土肥原少將等ノ高調セル支那西南派トノ接近説トモ思ヒ合セ本件ハ相當重要性ヲ有スルモノナリト愚考セラル

右御參考迄報告申進ス

本信寫送付先 大臣、赤峰、奉天、錦州、哈爾濱、滿洲里

齊々哈爾、海拉爾

在支大使、北平、天津、張家口

253 昭和10年7月7日 在天津川越總領事より
広田外務大臣宛(電報)

王克敏や宋哲元の動向など華北における中国
側の内部事情に関する殷汝耕内話について

天津 7月7日前発
本省 7月7日前着

第一八四號(極秘扱)

殷汝耕ノ永井ヘノ内話左ノ通

目下北平政界ハ宋一派横行シ居リ現ニ王克敏ハ右一派ヨリ
北平市長ニ蕭振瀛ヲ察哈爾主席ニ秦德純ヲ冀。察綏靖主任ニ
宋哲元ヲ夫々任命スル様中央ヘ稟請方要請ヲ受ケタリ而シ
テ東北系トハ根本ニ於テハ相許ササルモ商震排斥ノ點ニ於
テハ利害一致シ居ル宋哲元一派ハ萬福麟ノ保定移駐ヲ支持
シ中ニハ萬福麟ノ河北省主席ヲ主張スル者アリ宋哲元一派
ノ横行振リハ事情ニ通セサル向ニハ意外ナルヘキモ實ハ
軍分會ト氣脈ヲ通シ居レル模様ニシテ殊ニ最近成都ニテ蔣
介石ヨリ軍費ノ手交ヲ受ケタリト傳ヘラルルカ蔣介石トノ

實情ニ顧ミ全面的提携ハ右軍官組ノ凋落ヲ見サル限り仲々
困難ナルヘシ

尙北支ハ明朗化セリ等氣ノ早キ日本人ハ安心シ居レルモ執
拗ナル支那國民性特ニ隙アラハ喰込マントスル右軍官組及
之ニ附隨スル黨部今後ノ潛行的策動ニハ事ノ大小ヲ問ハス
深甚ノ注意ヲ要スヘシ(其ノ一ト共ニ極秘扱)

支、北平、南京ヘ轉電セリ

254 昭和10年8月20日 在中国若杉大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

関東軍特務機関による内蒙工作について

北平 8月20日後発
本省 8月20日後着

第二八五號(極秘扱、部外秘)

本官ノ聞込ニ依レハ軍側ニ於テハ張家口ニ松井大佐ヲ駐在
セシムルト同様ノ意味ニテ更ニ綏遠ニモ駐在武官ヲ常駐セ
シムル意嚮ニテ過日綏遠省主席傳作義來平ノ際高橋武官ヨ
リ同主席ニ對シ同省及寧夏方面ニ於ケル赤化共同防衛監視
ノ爲綏遠ニ我將校ノ駐在方承認ヲ取付ケ現ニ羽山少佐同地

關係ヲ頼メルモノト推斷スルノ外無シ商震ハ目下北平ニ於
テ百万萬福麟ノ監視下ニ立タサル様運動中ナル由ナルカ一
方王克敏ハ自分等(殷汝耕、何澄、湯爾和ノ「トリオ」)ノ
畫策ニ基キ上海、天津等日本軍當局ノ諒解ノ下ニ王ノ深キ
對日ノ認識ヲ頻リニ擔キ出セル次第ナルモ(以上王克敏ノ
件ハ特ニ極秘ニ願ヒタシ)

王ハ汪兆銘ノ引籠リニ伴フ中央ノ混沌狀態及統一アル日本
側ノ援助ノ期待外レ等ニ依リ一向元氣無ク例ヘハ戰區ノ諸
規程ノ改正等些々タル事務スラ中央ニ請訓ヲ爲ス始末ニシ
テ内實宋哲元一派ニ氣押サレ居ル等北平モ南京同様混沌狀
態ナリ勿論中央ノ現狀ヨリセハ宋、萬、商等カ彼此中央乃
至蔣介石ニ運動スルモ之亦直截明快ナル處理ヲ見ルヘシト
ハ思ハレサル處ナルモ兎ニ角北支時局ハ今日迄ノ處少數ナ
ル獵官者カ願望ヲ達シタルニ止リ結局全支ニ事態ヲ混沌化
セルヤノ感無キヲ得ス斯カル情勢下ニ於テ日支經濟提携ヲ
進行セシムルコトハ隨分困難ナルヘシ殊ニ排日ニ終始シ居
リ場合ニ依リテハ蔣介石ヲモ追出シ兼ネマシク又親日轉向
ヲ強ヒラルルニ於テハ共產黨ト合流セントスル黃埔軍官組
カ或ハ藍衣社、救國社等其ノ策謀機關ヲ通シ跋扈シ居レル

向ケ赴任セル由又内蒙德王ニ對スル日本側ノ援助指導等ニ
關シ支那側ニ於テ之ニ干渉セサルコトヲモ傳作義ノ承諾ヲ
得タル趣ナリ

尙過般多倫方面ヲ旅行セル張家口領事館池田書記生ノ語ル
所ニ依レハ關東軍ニ於テハ察哈爾省内ニ約七箇所、綏遠省
内ニ於テ二、三箇所ニ特務機關ノ出張員ヲ駐在セシメ絕對
極秘裡ニ種々ノ工作ニ從事シ居ル模様ニテ例ノ入蒙規則ノ
如キモ右秘密保護ノ一方便ニ外ナラサルカ如クスノ如キ軍
事、政治、經濟ニ關スル施設ニ關シテハ今日迄當館ニ於テ
ハ軍側ヨリ何等協議又ハ内報ヲ受ケタルコトナシ御參考迄
支、南京、天津ヘ轉電セリ

255 昭和10年8月29日 在天津川越總領事より
広田外務大臣宛(電報)

日中提携具體化の一案として北寧鐵路局への
邦人職員招聘を検討中との殷同内話について

天津 8月29日後発
本省 8月29日後着

第三三六號

往電第二三五號殷同ト會談ノ際本官ヨリ汪院長ノ辭職問題モ解決シ日支提携ノ氣運モ促進セラルルコトト考フル處日支提携ハ先ツ河北省ヲ中心トスル北支那ニ於テ之ヲ實行スルコト時宜ニ適スルモノト認メラルルモ北支ノ平和的空氣ハ依然トシテ動モスレハ擾亂セラルルノ危險アリ之ヲ防クニハ外交官カ形式的ニ親善ノ掛聲ヤ聲明ヲ爲スノミニテハ役ニ立タス具体的ノ提携ヲ事實ノ上ニ表スコトカ唯一ノ方法ニシテ南京政府モ同様ノ心持ニナルコト肝要ナリト述ヘタルニ殷同ハ至極同感ノ意ヲ表シ今回ノ列車事件ニ顧ミ今後ノコトニ付テモ種々研究中ナルカ鐵路局ニ日本人ヲ若干名入レ當方ト聯絡ヲ緊密ニスルコトヲ考慮シ居リ近ク案ヲ立テ人選等ヲ貴方ニ御願ヒ致度キ所存ナリト述ヘタルニ付本官ヨリ右ハ誠ニ結構ナリ右邦人ニ與ヘラルヘキ職務、權限、待遇等ニ付具体的ニ御申出アラハ外務省トモ相談シ御趣旨ニ副フ樣努力スヘシト答ヘ更ニ進ンテ貴局長カ斯ル考ヲ持タレ居ルニ於テハ御勸メ致度キコトアリトテ北寧鐵路ハ收益モ相當アル模様ナル一方車輛、路線、經營等ニ付改善ヲ必要ト認ムル點多シ殊ニ邦人間ニ於テハ滿鐵カ比較ノ對象トナリ輕蔑セラルル場合多キニ付滿鐵ニ見劣リセヌ様

汪兆銘辭職ノ理由ハ一、病氣ノ事實ニ依ル外二、政府組織ノ缺陷、三、外交政策ノ不確定ニ依ル外交上ノ遂行困難等ニアル處之等ノ點ニ付テハ蔣介石モ大体之カ是正方諒解シ六中全會ニ於テ決定スルコトニ話合ツキタルヲ以テ汪ハ同會議迄現狀維持ノ建前ニテ留任スルコトトナリタルモノナル旨語レリ

二、本官ヨリ當地政務整理委員會撤廢ヲ斷行スルニ至リタル理由及撤廢後ニ於テ停戰協定ニ關聯スル諸般ノ交渉事項其ノ他北支全局ニ關スル交渉ハ何人ヲ相手トスヘキヤト尋ネタル處王ハ政務整理委員會撤廢ニ關シ未タ正式ノ訓令ニ接セサルモ

實ハ自分(王克敏)カ黃郛ノ代理ヲ命セラレタル當時ヨリ同會ノ撤廢方考慮シ居リタル次第ニテ自分今回南京出張ノ際中央ヨリ本件ニ對スル意見ヲ徵セラレタルニ付同委員會ノ權力薄弱ニシテ何等實效ヲ擧ゲ得サル實狀ニ鑑ミ之カ撤廢ニ同意シタルニ依リ最後ノ決定ヲ見タル次第ナルカ同會ハ元來臨時ノ便宜施設ニ過キサリシヲ以テ之カ撤廢後ハ原則的ニハ從前通り全般的交渉案件ハ中央ニ於テ取扱ヒ地方的事項ハ當然各省市ニ於テ之ニ當ルコト當

諸般ノ改善ヲ爲ス爲日本ヨリ最高技術顧問トシテ専門家ヲ傭聘セラルルコト然ルヘシト勸メタルニ殷同ハ本件ハ簡單ニハ取運ヒ兼ヌルヤモ知レサルモ御趣旨ハ極メテ御尤ト存スルニ付一ツ考ヘ見ルヘシト答ヘタリ尙邦人傭聘ニ付鐵路局トシテ英國側トノ關係如何ト問ヒタルニ右ハ全然無關係ナリト答ヘタリ

支、北平、南京、滿ヘ轉電セリ

256 昭和10年8月30日 在中国若杉大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

駐平政務整理委員會撤廢後の交渉形式などに

関し王克敏に照会について

北平 8月30日後発
本省 8月30日後着

※
第二九三號

(1) 二十九日王克敏南京ヨリ歸來シタルヲ以テ當地政務整理委員會撤廢ノ政府令發表ニ關聯シ三十日本官同氏ヲ訪問會談ノ要旨左ノ如シ

一、本官ヨリ汪兆銘辭任後復職ノ實情ヲ尋ネタルニ對シ王ハ

然ニシテ停戰ト共ニ關係事項ト雖懸案ハ既ニ概ニ解決シ現ニ航空聯絡問題ノ如キモ交通部ヨリ派遣セル委員ニ依リ處理セラレ居ルヲ以テ左シタル支障ヲ生セサルヘク又停戰區内ノ事項ハ多クハ地方的問題ナルヲ以テ當該地方當局ニ依リ處理スルモ差支無カルヘシト語レルニ付本官ヨリ然ラハ政務整理委員會撤廢後之ニ代ルヘキ何等カノ機關ヲ新設スル議無キヤト尋ネタルニ

王ハ中央ニ於テモ之カ善後措置ニ關シ未タ何等決定シ居ラサル模様ナルカ大体一、前述ノ通同委員會開設以來ノ狀態ニ復歸スルカニ、北支特殊ノ事態ニ鑑ミ新ニ交渉機關ヲ設ケ例ヘハ現在ノ駐平外交特派員ノ權限ヲ擴張シタルカ如キモノヲシテ交渉ニ當ラシムルカノ二案ノ外ニ出テサルヘシト語レリ

三、本官ヨリ王南京行ノ際當地軍事分會ノ撤廢等ニ付何等相談アリタリヤト尋ネタルニ王ハ本問題ハ目下中央ニ於テ研究中ニシテ未タ決定ヲ見ス何應欽ハ右決定ヲ待チテ北上スルコトトナルヘシト語レリ

四、本官ヨリ國民政府ハ政務整理委員會及軍事分會ヲ撤退シ關東軍其ノ他トノ直接折衝ヲ避クル爲之ニ代フルニ華北

經濟協會ヲ組織シテ日本側ノ經濟進出ニ對抗セントスルモノニ非サトノ疑念ヲ抱ク向アル處其ノ真相如何ト尋ネタルニ對シ

王ハ同協會ノ組織ト政務整理委員會ノ撤廢トハ全然無關係ナルカ自分ハ同協會ハ日支經濟提携ヲ阻止セントスルモノニ非サシテ寧ロ同提携ニ便ニセントスルモノト善意ニ解釋シ居リ同協會ハ銀行公會及商務總會等ヲ主トスル民間ノ組織ニシテ官憲ハ之カ組織ヲ斡旋スルニ過キス現ニ之ヲ周作民、吳鼎昌等ノ發起ニ委ネ居ル次第ナルカ同協會ハ當分ハ北支經濟研究討論機關トナシ何レ其ノ結果ヲ見テ或ハ經濟的施設機關トナルヤモ計ラレスト語リ本件ニ關スル大要別電ノ如キ十九日附蔣介石ヨリノ來電ヲ示セリ

257

昭和10年9月13日

在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

何応欽が北平軍事分会主宰のための北平赴任を拒絶し華北經濟委員會設立にも反対しているとの情報について

第九五八號

往電第九一三號ニ關シ

十一日北上シタル許修直カ同日黃濬同道來訪ノ際ノ内話並ニ昨十二日唐有壬ノ内話等ヲ綜合スルニ蔣介石ヨリハ北平軍事分会ヲ主宰セシムル爲何應欽ニ對シ其ノ後再三北上方命令越スト共ニ汪兆銘ヲ通シ懲瀆セシメ居ルモ何ハ滿洲國承認問題以外ノ事項ニ付テハ蔣、汪ニ於テ何トカ日本側ト合作シ居ルモ日本側殊ニ軍部ハ何ノ北上後直ニ承認問題ヲ提起スル氣配アリ行々ハ詰腹ヲ切ラサレ黃郛ノ轍ヲ履マンコトヲ惧レ容易ニ北上ヲ肯セス現二十日何應欽ハ汪兆銘ニ對シ中央ノ指令ヲ仰クコトナク決定シ得ル權限ノ大綱ヲ授ケラルニアラサレハ北上スルモ效果ナシト述ヘタル趣ニテ汪兆銘、唐有壬等ハ之カ爲成ルヘク速ニ蔣ヲ四川ニ訪ヒ右ノ點ヲ確ムルコトトナリ居ル由ノ處一方王克敏ヲ全國經濟委員會委員ニ任命シ行々ハ華北經濟委員會ヲ全國經濟委員會ノ分会ト爲シ若ハ之ト並行セシムルコトトシ王ヲシテ右ヲ采配セシメントスル議モアル處(往電第九一三號參照)

何ハ此ノ種委員會ヲ設クルハ結局北方政治ノ單一化ヲ逆行セシムルモノナリトテ反對セル趣ニテ此ノ點ヲモ關係者ニ於テ協議スルノ要アリ孰レ十四、五日頃許修直等同道王克敏來寧スルヲ待チ何等カノ決定ヲ見ル模様ナリ
支、北平、天津へ轉電セリ

258

昭和10年9月24日

在中国若杉大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

河北經濟協會の成立ならびに設立趣旨について

北平

9月24日後発

本省

9月24日後着

第三二二號

河北經濟協會ハ廿二日發起人等三十餘名銀行公會内ニ會合シ同協會章程ヲ決定シ委員トシテ鄒泉森(北平市商會)周作民(北平銀行公會)朱深(北平電燈公司協理)范銳(永利公司總經理)翁文鴻(地質調查處長)鍾鐸(天津銀行公會)紀華(天津市商會)吳鼎昌(鹽業銀行總經理)何廉(南開大學經濟學院長)ノ九名ヲ選出シ正式ニ協會ノ成立ヲ告ケタルカ閉會後周作民ハ談話ノ形式ヲ以テ同協會ハ河北經濟ノ發展ニ

南京 發
本省 9月13日後着

關シ調査研究並ニ援助ヲ爲サントスルモノニシテ先ツ如何ナル事業ニ於テ自力更生ヲ計リ如何ナル事業ニ外資ヲ必要トスルカ又之カ運用ニ如何ナル方法ヲ採ルヘキカ殊ニ日支經濟提携ニ關シ其ノ事業ノ種類及提携ノ方式ニ定ムヘキカ等ニ付調査研究ヲ進ムルヲ主眼トシ全ク經濟ノ範圍内ニ限リ社會的貢獻ヲ爲サントスルモノナリトノ趣旨ヲ發表セリ
章程中主ナル條項左ノ通

ス

一、本會ニ於テ研究討論並ニ接洽ヲ行フヘキ範圍ハ

(一) 中央及地方政府ヨリ委託セラレタル河北經濟及國內外經濟事項

(二) 本會々員ノ建議スル河北經濟及國內外經濟事項トス

三、本會ノ會員ハ平津兩市商會代表、同銀行公會代表、各銀行公司ノ總理、協理經理並ニ經濟專門家ヲ以テ之ニ充ツ

四、本會ノ總會ヲ北平銀行公會内ニ置キ必要アルトキハ天津

二分會ヲ設クルコトヲ得

五、本會ノ經費ハ寄附金及會費ヲ以テ之ヲ支辨ス

本章程ハ河北省政府及平津兩市政府ニ報告シ行政院ノ許可ヲ得テ之ヲ施行ス

委細郵報

支、在支各總領事、滿へ轉電セリ

259 昭和10年9月30日 在中国有吉大使より
広田外務大臣宛(電報)

多田支那駐屯軍司令官の談話およびパンフレットに対する中国紙の抗議論説について

上海 9月30日後発
本省 9月30日後着

第七六六號

二十四日ノ多田司令官ノ談話及「パンフレット」ニ關シ本三十日晨報及中華日報ハ論説ヲ掲ケ何レモ日支關係好轉ノ機運ニアル此ノ際斯ノ如キ中國ノ獨立ヲ無視シ軍事長官ヲ侮辱スルカ如キ言葉ヲ發表セラレタルハ遺憾至極ナリトノ趣旨ヲ述ヘ中華日報ハ爾今在支日本軍人ハ國際儀禮ヲ重セラレタシト言ヒ晨報ハ華北五省ハ中華民族發生ノ地ニシテ之ヲ自治團體ト爲スカ如キハ根本的ニ相容レ得サル所ナリ

吾人ハ隣邦ノ發展隆盛ヲ喜フト共ニ自ラノ獨立ヲ保持スルカ爲ニハ如何ナル努力ヲモ惜マサルモノナリ此ノ他ヲ尊ヒ自ラヲ尊フ國民ノ心理ヲ一部ノ日本人カ正確ニ認識シ得サルハ眞ニ遺憾ナリ又軍事長官ハ國內安定ニ動功大ニシテ極端ナル反對派ト雖之ハ承認スル所ナリ吾人ハ日本カ大國ノ襟度ヲ以テ遇サレンコトヲ願望スルモノナルニ日本側ニ之ヲ無視スルカ如キ言動アルハ遺憾ナリト述ヘ居レリ
尙二十七日「ノース、チャイナ、デイリー、ニュース」紙モ徹頭徹尾皮肉ナル筆致ヲ以テ日本ノ出先軍部ト中央トノ見解ノ矛盾撞著、蔣介石ニ對スル見方ノ著シキ差ヲ指摘シ居レリ
北平、南京、天津へ轉電セリ

260 昭和10年10月2日 在中国若杉大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

華北五省の連合自治計画など我が国軍側の華北工作への対処方針につき請訓

北平 10月2日後発
本省 10月2日後着

第三三一號(極秘、館長符號扱)

當方面最近ノ情勢ヲ觀察スルニ北支ニ對スル軍側ノ意嚮ハ國防上及日、滿、北支ノ經濟「ブロック」結成ノ爲窮極ニ於テ政治的ニモ財政經濟的ニモ南京政府ノ羈絆ヨリ離脱セル北支五省ノ聯合自治體(事實上ノ獨立)ニ導カントスルニアルモノノ如ク天津軍司令官ノ談話トシテ九月二十五日附朝日新聞ノ報スル所ハ最簡明ニ其ノ要旨ヲ盡シ居ルモノト言フヘク又最近ノ北支事件並ニ昨今ニ於ケル河北省主席商震ノ擁立、察哈爾省宋哲元ノ平津衛戍司令任用及山西、綏遠方面ニ對スル工作等一トシテ右ノ方針ニ基カサルモノ無ク又往電第三〇一號末段所報綏遠及寧夏方面調査班ノ外最近關東軍ノ支持ニ依リ天津軍軍屬トナレル滿洲國日系官吏及滿鐵社員ヲ以テ編成セル調査班二十餘名(天津二本據ヲ置キ新タニ北支政權樹立ノ場合ニ備フル爲自治外國租界トノ關係ヲ含ム)、經濟、財政(稅關接收ヲ含ム)、産業ニ關スル政策上ノ調査ヲ爲ス)並ニ滿鐵調査班三十餘名(是亦天津軍軍屬トナレル滿鐵社員ヨリ成リ工學士及理學士大部分ヲ占メ主トシテ技術上ノ調査ヲ爲ス數名ハ既ニ奧地ニ出發シ其ノ他ハ續々天津ニ集結シツツアリ滿鐵經濟調査會對

支關係主査野中及天津軍參謀林中佐之ヲ指揮ス)ノ如キ何レモ前記政策ノ實行ノ用意ニ外ナラス昨今滿洲及朝鮮方面ヨリ北支視察ニ來ル本邦官吏及實業家等カ本官等ニ對シ北支ニ於ケル關稅ノ獨立及日本又ハ滿洲國通貨ノ可能性等ニ付質問スルモノ鮮カラサルカ如キ亦其ノ一反映ト察セラル右ノ外關東軍ノ對蒙古工作ハ着々トシテ進行シ居ルコト本官及張家口領事累次ノ報告ノ通ニシテ過日土肥原少將力張家口、承德間ヲ往來シ察哈爾省主席及德王ト會見セルカ如キモ内蒙自治促進ノ使命ヲ帶ヒタルコト疑ヲ容レス尙最近軍部ノ要望ニ依リ内蒙ニ於ケル經濟發展ノ爲大倉組カ其ノ傍系會社トシテ大蒙公司(本社ヲ新京ニ置キ差當リ多倫及張家口ヲ活動ノ中心トスル筈)ヲ設立セルモ右工作ノ一助ニ外ナラス

以上ノ如ク軍側ノ遠大ナル計畫ハ着々トシテ進行シ居リ今後ノ進展ニ伴ヒ我對支全局ノ外交上及一般國際關係上如何ナル影響ヲ及ホスヘキカハ今ヨリ深甚ノ考慮ト周到ナル用意トヲ要スル儀ト存セラル就テハ外務當局ニ於テモ右ノ如キ軍側ノ方策ニ全幅ノ支持、協力ヲ與フヘキヤ又ハ之ニ對シ或程度ノ緩和又ハ牽制ニ努ムヘキヤ將又當分之ヲ軍側ノ

施設ニ放任シテ高見ノ見物ニ甘ンスヘキヤ何分ノ對策御決定ノ上出先ニ於テモ協調ノ實ヲ擧ケ得ル様詳細ノ御指示ヲ仰度シ

尙從來前記ノ如キ軍側諸般ノ計畫、施設等ニ關シテハ事前ニ於テ何等當方ニ協議ナキノミナラス之カ決定又ハ着手ニ當リ何等正式ノ通知サヘ無之有様ニテ出先外務官憲トシテハ單ニ個人的努力ニ依リ纔ニ部分的情報ヲ得ルニ過キスシテ之ニ協力又ハ監視ヲ爲スコト不可能又ハ不充分ナルノ憾アリ爲ニ任國官憲ニ對シテハ勿論一般内外人ニ對シテモ外交機關ノ威信ト責任上面目ナキ次第ニ付之カ是正方ニ付テモ中央並ニ新京ニ於テ何分ノ御配慮ヲ請フ

支ニ轉電セリ

261 昭和10年10月8日 広田外務大臣より
在中国有吉大使宛(電報)

磯谷大使館付武官が米国紙インタビューで多
田司令官の談話に強い賛同を表明したとの情
報について

別電 十月八日發広田外務大臣より在中国有吉大使

ルカノ二方法アルノミ北支及支那一般ノ現狀並支那ノ對日政策ハ豫テ抱キ居タル悲觀說ヲ裏書ス(同武官ハ多田少將ノ小冊子ノ主ナル趣旨ニ力強キ同意ヲ表シタル上)北方五省ニ於テハ軍閥及政治家ハ幾千萬ノ民衆ヲ貧窮ノドン底ニ陥レ之ニ依リ北支ヲ共產主義宣傳ニ都合ヨキ地域タラシメ而シテ滿洲國ニ接續スル廣大ナル地域ヲ危殆ナラシメ延イテ東亞ノ平和ヲ危険ナラシメ居ルカ北支五省ニ於テ即時適當ナル方法ヲ講シテ之等軍閥及政治家ノ大衆搾取ヲ根絶セシメサル可カラス又少數者ノ利益ノミヲ考慮スル現支那政府ハ支那四億民衆ノ安寧隆昌ト多數者ノ利益トヲ衷心冀フ政府ニ依リ代ヘラレサル可カラス云々

262 昭和10年10月8日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

華北における有力將領を網羅した対日提携の
ための政治機關設立計画の情報について

南京 10月8日後發
本省 10月8日後着

三 華北問題
第一〇八六號

宛第二五五號

右磯谷武官インタビュー談話

本省 10月8日發

第二五四號

七日紐育「タイムス」通信員「バイヤス」情報部長ヲ來訪シ貴地磯谷武官ハ四日「アーベント」ニ對シ要領別電第二五五號ノ如キ「インタビュー」ヲ與ヘタル由ナルカ右ハ曩ノ所謂多田聲明ト共ニ米國ニ於テ多大ノ注意ヲ喚起ス可ク從來自打電スル支那關係ノ報道カ屢支那ヨリノ電報ノ爲ニ裏切ラルルコトアリシ處本社ニ於テハ現地軍人ノ會談ノ方カ一般米國人ニ深キ印象ヲ與フルモノトシテ寧口之ヲ重視シツツアル旨述ヘタル趣ナリ

別電ト共ニ南京、北平、天津へ轉電セリ

(別電)

本省 10月8日發

第二五五號

北支問題解決ニハ蔣介石カ其ノ政策ヲ根本的ニ修正スルカ若ハ北支五省カ全然中央政府ヨリ分離シ獨立政權ヲ樹立ス

本官發支宛電報

第一〇六二號

昨七日來寧セル何其輩本日本官ヲ來訪シ政務整理委員會解消後ノ華北情勢ハ表面平靜ノ如クナルモ内實複雜ヲ極メ居ルニ拘ラス中央ハ軍事分會ヲ種ニ何應欽ヲ北上セシメント企テ依然同地方ニ對シ煮切ラサル態度ヲ以テ臨マントシ居ル等實ノ所一層形勢ヲ惡化セシメントシツツアリトモ見ラルル處幸ヒ自分ハ長ク華北ノ政治方面ニ當リ來レル關係ヨリシテ最近特ニ韓復榘ヨリ申出アリ宋哲元、商震、閻錫山、傅作義、秦德純等ヲ網羅スル一團ヲ結成シ日本トノ間ニ誠心合作ヲ扶持ノ趣旨ヲ以テ華北特殊ノ事態ニ即スル様日本トノ關係ヲ設定シ度ク存シ居ル次第ナルカ實ハ中央モ右形勢ヲ探知シ自分ノ行動ニ相當注意ヲ怠ラサル模様ナルニ付テハ右ノ事情秘密ニ閣下ニ通報スルト共二十一日御面會方手配ヲ請フト依頼シタルヲ以テ同日午前十一時頃伺フ様申聞ケ置キタリ

大臣、北平、天津へ轉電セリ

263 昭和10年10月8日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

多田司令官の談話に関連した華北情勢につき
中国要路が相当動揺しているとの観測報告

南京 10月8日後発
本省 10月8日後着

第一〇九一號(極秘)

本官發支宛電報第一〇六二號ニ關シ

八日求ニ依リ唐有壬ニ會見セル處唐ハ冒頭往電何其輩來寧中ナリト切出シ如何ニモ其ノ魂膽ヲ知り拔キ居ル如ク見セ掛ケタル上支發閣下宛電報第七六〇號以後ノ蔣作賓ノ報告ノ次第ヲ述ヘ廣田大臣ニ申上クレハ日本ノ態度ハ之ヲ以テ決定的トナルヘシトノ見据付カハ支那トシテハ此ノ際一大決心ヲ爲スノ用意アル處右ニ依リ日本側力虛心坦懷ニ支那ニ對シ何物カヲ與フルノ可能性無キヤト尋ネ幣原元外相ハ實ハ支那ヲ見誤リシ程ノ同情的政策ヲ行ヘルモノナルヘキカ右ニ乘シ國民黨殊ニ王正廷カ望蜀ノ念ヲ起シ遂ニ日本ヲ怒ラセ滿洲問題トナリシコトハ事實ニシテ其ノ責任ノ七分ハ支那ニアリト言フヘキモ亦一面支那ニハ實ハ外交政策

264 昭和10年10月11日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

多田司令官の談話問題に関し蔣介石が抗議打
切りを指示との何応欽内話について

南京 10月11日後発
本省 10月12日後着

第一一一三號

十一日何應欽ノ本官ニ對スル内話左ノ通

一、蔣介石ハ目下西安ニテモ茲一週間位ニテ同地行營設立ノ事務ヲ終リ二十日前後ニハ來寧ノ如クナルカ數日前多田聲明ニ付此ノ上問題ニスルコトハ却テ日本軍部ヲ苛立タシムル惧アルニ付一先ツ打切ル様電報アリタリ

二、蔣ハ四川ニ於ケル剿匪大体片付キタル爲顧祝同ニ中央軍ノ統制ヲ委ネ同方面土民軍ハ劉湘ニ指揮セシメ行營ヲ西安ニ進ムル一方武昌行營ヲ宜昌ニ移スコトナレルカ右ハ孰レモ新疆省方面ニ逃走スル共產軍ニ對スル工作ニ外ナラス

支、北平へ轉電セリ

等一貫セルモノ無カリシコトモ右ニ依リ證明セラルル次第ナルニ拘ラス日本側カ今以テ國民黨ハ以夷制夷(精神ニ終始スト爲スハ實ハ買被レル見方ト言フヘシ

一方華北ノ形勢ハ茲數箇月間ニ大變化ヲ來ス無キヲ保セサル情勢ニモアリ此ノ際支那側ヨリ進シテ何トカ大局上ノ話ヲ切出シ度キ積リニテ實ハ寄々協議中ナリト述ヘタルヲ以テ本官ヨリ往電第八九三號張群ニ對スルト同様ノ趣旨ヲ述ヘ此ノ際蔣介石、汪兆銘等カ一大決心ヲ以テ前非ヲ改メ賣國奴トナリ喜ンテ大局上ノ調整ヲ志スヨリ外ニ途無ク日本ヨリ何カ貰ヒ度シ等ハ不心得ニテ先ツ自己ノ誠意ヲ決然披瀝シ蔣作賓ヲシテ今同爲サシメタルカ如キ探リノ沙汰ヲ止メナハ廣田大臣ニ於テモ耳ヲ傾クルコトナルヘシト應酬シ置キタルカ右會談等ヨリ得タル印象ニ依レハ多田聲明ニ關聯シ且ツハ大連ニ於ケル武官會議開催及外、陸、海、大藏四省間ノ對支政策決定等ノ情報ニ依リ支那側ハ意外ノ動搖ヲ來シ居ル様子ナルニ付右御參考迄電報ス

支、北平、天津へ轉電セリ

265 昭和10年10月11日 在中国若杉大使館參事官より
広田外務大臣宛

華北および蒙疆方面における外交機関強化に
つき意見具申

機密第六三七號 (接受日不明)

昭和十年十月十一日

在中華民國日本大使館

大使館參事官 若杉 要

外務大臣 廣田 弘毅殿

北支及蒙疆方面經營ニ關シ施設方稟申ノ件

滿洲國建設以來帝國ノ亞細亞大陸ニ對スル政策ハ最早ヤ議論ノ域ヲ脱シ牢固トシテ拔クヘカラサル大陸政策ノ第一歩ヲ踏ミ出シタルモノト斷定スルノ外無ク殊ニ我國防ノ前衛トシテ陸軍主力ノ大半ヲ以テ組織セル關東軍ノ存在及其ノ北支及內蒙古方面ニ對スル施策ハ其ノ當否ノ議論ハ兎ニ角トシテ我國策遂行上無視スルヲ得サル嚴然タル事實ニシテ最近着々其ノ實行ニ着手シツツアル次第ハ累次ノ報告ニ依リ御承知ノ通ナル處我外務當局ニ於テモ右ノ如キ事態ト今後ノ情勢トヲ洞察シ成ルヘク速カニ之カ對策ヲ決定ノ上豫

メ之ニ適應スル諸般ノ施設ヲ行フニ非サレハ滿洲事變ニ於ケル實驗ニモ鑑ミ事毎ニ追從又ハ反目スルノ破目ニ陥ルヘキヲ虞ル就テハ差當リ可成早目ニ左記最少限度ノ用意ヲ爲スノ必要アリト思考ス

一、北平大使館及天津總領事館ノ聯絡及改組

前述ノ如キ滿洲國建設以來ノ北支ノ新事態ニ適應セシムル爲北支ニ於ケル外務機關ノ編成ヲ調整スルノ必要アル處北平ニ於テハ支那政府南遷以來支那側ニ對シテ全般的な外交交渉ノ相手タルヘキ中央機關ヲ失ヒタルモ尙實際上ハ北支五省ニ亘ル特殊行政機關(例ヘハ政務整理委員會及軍事分會ノ如キ)竝北平特別市等ニ對スル交渉ハ本來其ノ性質上地方的ノモノナルヲ以テ當該總領事館ノ所管ニ屬スヘキニ拘ラス從來北平大使館ニ於テ之ヲ處理シ且又之等事項ノ地方的特質ニ鑑ミ北平大使館ハ一々在上海大使ノ指揮ヲ俟タスシテ多クハ其ノ裁量ニ依リ處理シタル上之ヲ大使ニ報告スルニ過キサルト恰モ當該地方總領事館ノ取扱振ニ似タルモノアリ尤モ政務整理委員會ハ最近撤廢セラレ又軍事分會ノ解散モ結局時日ノ問題トナリ居ルヤノ趣ナルモ支那側ニ於テハ今後何等カノ形式ニ

然ルニ天津總領事館ノ地位ハ北支最近ノ情勢竝滿鐵、關東軍及天津軍等ニ於テ天津ヲ北支經營ノ本據トスルノ事實ニ鑑ミ益其ノ重要性ヲ増加セルヲ以テ同總領事館ノ陣容ヲ一層充實スルト共ニ北平大使館ト天津總領事館トノ關係ハ對外交渉及在留民保護取締乃至經濟的及文化的施設上從來ヨリモ一層緊密ノ連絡ヲ保チ諸般ノ施設及措置ニ付統一協調ヲ計ルヲ必要トスルニ至レリ

事情右ノ如クナルヲ以テ天津及北平ニ於ケル公館長ハ從來ノ通勅任總領事及大使館參事官ヲ行テスヘキハ勿論ナルモ北支今後ノ特殊性ニ鑑ミ其ノ方針及措置振ヲ統一單純化スル爲ニハ在天津總領事及北平大使館參事官ハ同一人ヲ以テ之ヲ兼任セシメ隨時必要ニ應シテ天津又ハ北平ニ居住來往セシムルヲ最捷徑トス(此案實現ノ曉ニハ南京又ハ上海大使館ニ專任參事官ヲ増員スルニ便ナルヘシ而シテ參事官及總領事兼任竝列國參事官配置ノ例ニ付テハ註ニ參照)然レトモ右兼任案實行ニ當リテハ同兼任者ノ人選ニ付特別ノ注意ヲ要スヘシ即チ天津ノ如キ重要ナル通商港ニシテ然モ居留民團其ノ他內治行政事項複雜ナル所ニ於テハ特ニ之等行政の經驗手腕アル領事官ヲ必要

於テ北支全般ニ對スル共通機關ヲ設クルノ考察アルモノノ如ク又本官累次ノ報告ノ通北支五省聯合自治ニ依ル北支新政權樹立ノ機運モアルニ付中央機關ニ類似スル地方的特殊行政組織ニ對スル外交交渉ノ必要アルハ從來ト同様又ハ夫レ以上トナルヤモ計ラレス

加之北平ニハ依然トシテ北清事變ニ關スル最終議定書ニ基ク公使館區域及英米佛伊等有力ナル十二ヶ國ノ大公使館存在スルヲ以テ之ト折衝交際スヘキ外交官(領事官ニテハ不可)ノ在勤ヲ必要トシ殊ニ北支最近ノ情勢ニ鑑ミ同議定書ニ基ク「公使館護衛隊駐屯權」及「北平ト海濱間ノ自由交通維持ノ爲ノ駐兵權」ヲ保持スルヲ有利トスルノミナラス或ハ場合ニ依リテ更ニ此ノ特權ニ基キ増兵スルノ必要アルニ至ルヤモ計ラレサルヲ以テ該特權ヲ保持スル爲ニハ依然トシテ北平大使館ノ存續ヲ必要トシ大使館ノ一部トシテ之ヲ存在セシムルノ必要アリ(大使館ノ所在地方何レニアリヤノ問題ニ付テハ註一、又北平大使館ノ地位及改組竝北京外交團ノ地位及變遷ニ關シテハ別添調書參照)

トシ之ニ反シ大使館參事官トシテハ必スシモ右ノ如キ要素ヲ必要トセサルモ語學其ノ他國際慣例ニ通スルノ必要アリ旁總領事及參事官兼任者ニハ右兩資格ヲ具備スル者ヲ以テスル様考慮ヲ加フルノ要アルヘシ而シテ右兼任ノ場合ニハ兼任者ハ隨時天津北平間ヲ往來スルハ勿論必要ニ應シテ館員ヲシテ頻繁ニ兩地間ヲ往來セシムルノ必要ヲ生スヘク又兩地ニ於テ事毎ニ一々同兼任者ノ命令ヲ仰クノ暇無キ場合少カラサルヘキヲ以テ謂ハハ同兼官ハ北支探題ニ當ル政務官ノ如キ地位ヲ占メ其ノ事務總長トシテ天津總領事館ニハ普通總領事ニ相當スル事務練達ノ高等官三等級ノ領事ヲ配置シ北平大使館ニハ外交團及對外交涉事務ニ堪能ナル一等書記官ヲ配置シ又現在ノ通二三等書記官中一名ヲ以テ天津領事ヲ兼任セシムヘシ尤モ參事官ト總領事兼任ノ結果同官ハ北平天津ノ兩所ニ居住往來スルヲ以テ隨時往復ノ旅費、兩公館事務打合せ上ノ通信費(主トシテ電話)及兩所ニ於ケル使用人給料及燃料電氣水道等ニ關スル諸雜費支給ノ爲若干ノ經費ヲ見込ムノ必要アルヘシ

尙兩公館館員數ハ北平天津何レモ現在ノ儘ニテハ北支事

件以來特ニ激増セル内外要人等來客ノ應接及日常館務ノ爲忙殺セラレ基礎的調査研究又ハ外間トノ聯絡接觸等ニ當ル餘裕ニ乏シキヲ以テ少クトモ北平ニ於テ二等又ハ三等書記官一名、天津ニ於テ之ニ相當スル領事一名及書記生二三名ヲ増員シ專ラ右新事態ニ對應スル北支及内蒙關係ノ事務ヲ擔任セシムルノ要アリ

(註二) 大使館ノ所在地カ何レニアリヤノ問題ニ關シテハ米國大使ハ嚮ニ本官ノ質問ニ對シ答フル所ニ依レハ大使ハ其ノ任國全体ニ駐節スル建前ナルヲ以テ大使ノ居所即チ大使館ニシテ其ノ事務所(Chancery)モ亦大使館ヲ離レテ存在シ得サル理ナルヲ以テ其ノ居所及事務所カ北平又ハ南京又ハ上海ノ何レニアリトスルモ何レモ之ヲ大使館ト稱シ得ヘク特ニ事務所ノ名稱ヲ用ユルノ要ナカルヘシトノ意見ナルカ一方獨逸大使(獨逸ハ嚮ニ在支治外法權及北清事變最終議定書ニ基ク特權ヲ拋棄シ居レリ)ハ客月十四日南京ニ於テ新任大使トシテ信任狀捧呈ニ當リ公表セル聲明書中ニ獨逸大使館ノ所在地ヲ北平ヨリ南京ニ移轉スル旨ヲ明示シ居レリ又蘇聯大使ハ南京ニ駐節シ獨逸ト同シク治外法權及右議

モ取扱商品ノ大部分ハ蘇聯品ナリ)ニ依リテ行ハレ本邦側ニ於テモ領事館ノ外天津駐屯軍所屬ノ特務機關(大佐ヲ機關長トシ十數名ノ所員ヲ使用シ居レリ)及最近ニ至リ國際運輸公司、坂田組並文林洋行等ノ通運機關開始セラレ昨今頓ニ山西、綏遠視察者ノ往來増加セリ而ルニ我外務機關トシテハ現在領事館アルモ僅カニ副領事一、及書記生一、巡查三在勤シ居ルノミニテ同領事館ニ於テハ自働車ノ設備モ無ク經費モ少ク又僅カニ日常ノ事務ニ追ハレ調査、計畫、連絡等ノ餘裕^裕ニ乏シ依テ被上ノ趣旨ニ適應スヘキ活動及將來此方面ノ活動ニ適スル人物養成ノ爲ニ少クトモ領事一、副領事一、書記生三(支那語二、蒙古語一)巡查若干ヲ配置シ又必要ニ應シ支那又ハ蒙古事情ニ通スル囑託又ハ留學生數名ヲ隨時使用シ之等館員等ヲシテ充分調査及視察旅行ト各方面トノ接觸ノ便宜ヲ與ヘ之ニ要スル充分ナル費用ヲ給與シ又領事又ハ館員ヲシテ成ルヘク屢々北平大使館ト來往連絡セシムヘシ尙同領事館充實ノ上將來ハ之ヲ總領事館ニ昇格シ更ニ綏遠ニ其ノ分館ヲ置キ又山西省太原ニ領事館ヲ開設スルノ用意ヲナスノ要アリ(現ニ軍側ニ於テハ最近綏遠ニ少佐

定書ノ特權ヲ拋棄シ居ルニ拘ラス北平ニ於テ大使館事務所ヲ存續シ大使館參事官ヲ在勤セシメ居リ又伊國ハ事實上大使ハ多ク上海ニ駐在スルニ拘ラス大使館ハ北平ニ存在スル建前ヲ採リ居リ英國ハ名實共ニ北平ヲ以テ大使館所在地ノ建前ヲ維持シ南京ニ其ノ事務所ヲ有シ大使ハ必要ニ應シ隨時北平、南京間ヲ往來シ居レリ

(註二) 蘇聯大使館ニ於テハ北平大使館參事官ヲシテ天津總領事ヲ兼任セシメ又南京大使館參事官ヲシテ上海總領事ヲ兼任セシメ居レリ(一)英國大使館及米國大使館ニ於テハ南京及北平ニ各一名ノ專任參事官ヲ配置シ居レリ

二、張家口領事館ノ充實

張家口ハ對内蒙及外蒙施策ノ要地ニシテ山西、綏遠、寧夏、新疆等ニ連絡スル關鍵ニ當ルヲ以テ現在ニ於テハ殊ニ外蒙トノ貿易切斷サレタル以來經濟的價值ハ左程ナラサルモ將來ニ於ケル政治軍事及經濟上施設ノ根據タルヘク現ニ支那側ニ於テハ察哈爾省ノ軍政及民政ノ中心及貿易集散地ナルノミナラス外蒙カ蘇聯ノ勢力下ニ歸シタル以來同地トノ貿易ハ專ラ德華洋行(名目ハ獨逸商ナル

一名及補助員數名ヲ置キ又太原ニハ從來大尉ヲ駐在セシメ居レリ)

三、新疆總領事館ノ開設

本件ニ關シテハ嚮ニ七月十九日附機密第四九八號ヲ以テ稟申セル通ナルカ本件ハ成ルヘク速カニ實施セラルル様致度尙本件ニ關シテハ在「アフガニスタン」北田公使發閣下宛新疆及其ノ重要問題ニ關スル報告(本年六月六日附公機密第一〇二號)「ヘデン」博士新疆方面視察ニ關スル三月十五日附公第二〇五號本官報告並最近英國大使館「タイクマン」參事官新疆旅行ニ關スル九月中旬往電等參照アリタシ

本信寫送付先 大使 天津 南京 張家口

266

昭和10年10月16日

在中國若杉大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

華北分離を意図する我が国軍人の言動が醸成した中国側の空気について

北平 發
本省 10月16日後着

第三四四號(極秘扱、部外秘)

吳佩孚側近者ヨリノ情報ニ依レハ過般宋哲元ハ吳訪問ノ上北支ニ於ケル新政權樹立ノ用意アル旨ヲ語り吳モ之ヲ了解セルモ吳自身乗リ出ス意嚮無キ模様ナル處最近蔣介石ヨリ吳佩孚カ日本側ノ獨立運動ニ擔カルルノ惧アルヲ憂ヒ(現ニ停戰區域内ニ策動シツツアル白堅武徒黨ノ獨立運動等ニモ南京政府側ヲ刺戟シ居ルカ如シ)吳ヲ南京又ハ郷里ナル山東ヘ移轉センコトヲ再三勸告シ來レル趣ナルカ最近我當局ノ對支政策決定及大連、上海等ニ於ケル陸海軍武官會議等ノ新聞報道ニ依リ支那要人等ハ相當衝動ヲ受ケ種々取沙汰シ居ル模様ニテ過日雷壽榮カ本官來訪ノ際日本ハ今回北支自治獨立ノ新政策ヲ決定セラレタル趣ナルカ事實ナラハ自分等モ呼應シテ起ツノ用意ヲ爲スヘシト語りタルニ對シ本官ヨリ然ルヘク應酬シ置キタル次第アル處右ハ當地要人間ニ種々ノ臆測及策動行ハレ居ル一例ニ外ナラス尙本邦人中ニモ軍側ニ於テ本月下旬頃ヨリ北支五省聯合自治ノ手初トシテ先ツ宋哲元ヲシテ河北省ノ自治ヲ行ハシメ漸次他省ニ及ホサントスル計畫ニテ其ノ目標トスル所ハ北支經濟工作ノ爲先ツ河北省ノ財政(特ニ關稅收入)ヲ南京政府ヨリ切

ニ對シ輸送制止方命令アリ度キ旨申越シタルヲ以テ二十五日附ニテ次ノ如キ趣旨ニ依リ之ニ應酬シ置キタリ

有吉大使ニ於テ貴國當局ニ對シ公約セラレタルハ經濟安定ノ見地ヨリ現銀ノ國外持出ヲ防止スル爲當方ニ於テモ自發的ニ其ノ適當ト認ムル措置ヲ帝國臣民ニ對シ執ルヘシトノ趣旨ノ外ニ出テサルモノニシテ帝國官憲トシテ現銀ノ國內輸送制限ニ關シ海關告示其ノ他貴國官憲ノ一方的ニ發スル法令ノ帝國臣民ニ對スル適用ヲ承認シ乃至ハ右法令ノ目的達成ノ爲必要ナル援助ヲ與フヘキ限リニアラサルハ勿論斯ル辦法ノ實施ハ商取引ヲ阻害スルコト夥シク殊ニ爲替取組ノ方法モ無ク又紙幣ニ依ル受拂ノ習慣ニモ慣レ居ラサル奥地方面トノ取引ハ殆ト停頓狀態ニ陥ルヘキモノト認メラレ旁當方トシテハ御來示ノ如キ措置ハ執リ難シ云々大臣、南京、北平ヘ轉電セリ

268

昭和10年10月31日

広田外務大臣より
在仏国佐藤大使宛(電報)

塘沽停戰協定区域内の香河県で起きた農民の
自治要求運動には我が国軍人の関与なき旨な

離サントスルニアルヤノ觀測行ハレ居ル趣ナリ右ノ真相ハ素ヨリ不明ナルモ當地昨今ノ空氣御考察ノ一資料トシテ御參考迄

支、南京、天津ヘ轉電セリ

267

昭和10年10月25日

在天津川越總領事より
広田外務大臣宛(電報)

密輸防止策として河北省政府が発令した銀輸
送制限につき邦人への適用は承認できず協力
要請には応じられない旨公文回答について

天津 10月25日後発
本省 10月25日後着

第三〇三號

本官發支宛電報

第一六五號

河北省政府ヨリ本月九日附公文ヲ以テ銀密輸輸出防止策トシテ支那國內ノ銀輸送ヲ制限スル爲財政部ト打合セノ上河北省内銀輸送制限辦法ヲ決定シタルニ付曩ニ銀密輸取締ニ關シ有吉大使ニ於テ協力ヲ同意セラレタル次第モアリ居留民

ど華北情勢につき通報

本省 10月31日発

第一八八號

貴電第三五一號ニ關シ

貴大使御含迄左ノ通り

一、停戰協定線上ニ在ル香河(Heilang Ho)縣ノ農民ハ武宜亭等主唱ノ下ニ自治團ヲ組織シ地方自治ノ獲得及地租附加稅ノ撤廢等ヲ要求シ來レル處十月二十一日約一千ノ民衆右請願ノ爲縣城ニ迫リタルニ縣長ハ代表ヲ拘留シ武力ヲ以テ農民ヲ壓迫セントセルヤニテ民衆ハ遂ニ縣城ヲ占領シ臨時縣長ヲ公選スルト共ニ蔣介石政權否認ノ自治宣言ヲ發表セル趣ニテ該運動ハ附近ニ、三ヶ所ニモ波及セルカ其ノ後事態ハサシテ擴大ノ惧ナキモノト認メラカ居レリ尙本件ハ北支五省聯盟說等トモ關聯シ北支農民ノ自治運動トシテ種種誇大ニ報道セラレ居ル處停戰協定ノ關係上軍側ニ於テ支那軍隊ノ協定地域侵入ニ關シ注意ヲ喚起シタルコトハアルモ軍ニ於テ本件ヲ「バック」シ居レリトノ說ハ事實ニ非ス(香河事件民衆中ニ日本人數名居リタルニ付憲兵隊ニ於テハ北平ニ引致ノ上嚴重戒告ヲ加ヘ

タル由)

三、貴電末段外務及軍部關係者ノ會合ハ往電合第六九〇號ノ方針説明ノ爲三省打合ノ上夫々係官ヲ渡支セシメ大連、上海、天津等ニ於テ最寄關係出先ヲ會同説明セシメ居ルモノニ過キス

追テ對支政策決定ニ關スル應酬振ニ付テハ往電合第七二九號申進ノ通念ノ爲

土ヲ除ク在歐各大使及壽府へ暗送アリ度
米ニ轉電シ米ヲシテ伯ニ轉電セシメタリ

269 昭和10年11月6日 在天津川越總領事より
広田外務大臣宛(電報)

天津領事団が同地海關長に對シ密輸の現状に
關する照会状發出について

天津 11月6日後発
本省 11月6日後着

第三一八號

本官發支宛電報

第一七六號

密輸現状に關する天津領事団照会状への海關
当局の回答振りについて

上海 11月9日後発
本省 11月9日後着

第九三二號

本使發天津宛電報

第四〇號

貴電第一七六號ニ關シ(密輸事件統計資料海關へ請求ノ件)
總稅務司側ハ成ルヘク簡單ニ回答スル方針ニテ關務署側ト
協議ノ結果本九日飛行便ニテ貴地稅關ニ對シ「停戰協定區
域内ニ於テハ稅關側ハ陸上海上トモ武裝ヲ許サレサル爲武
器ヲ有スル密輸業者ニ對シ無力ニシテ密輸ハ如何トモシ難
キ狀態ナリ」トノ趣旨ニテ首席領事ニ回答スル様訓令ヲ發
シタル趣ナリ御含迄
大臣、南京へ轉電セリ

271 昭和10年11月10日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

華北方面における行政單一化および日中共同

貴電第三九號ニ關シ

當地聯合商業會議所ヨリ首席領事宛「密輸ニ依ル不正競争
ニ依リ外支商人ノ蒙リ居ル打撃甚大ナルニ付關係官憲ニ對
シ之カ防遏方ニ付領事團ヨリ申入アリ度キ」旨請願アリ十
月二十九日領事團會議(當方ヨリ岸出席)ノ席上種々議論ノ
末差當リ首席領事ヨリ稅關長宛前記請願ノ次第ヲ敘シ領事
團トシテ現狀是正ノ爲執ルヘキ措置ノ參考トシテ稅關側ヨ
リ見タル本件現狀ニ付報道(information as to the present
position from the customs point of view)ヲ得度キ旨ノ書翰ヲ
送り(右書翰ハ十月三十一日發送濟)稅關長ヨリ回答ニ接シ
タル上ニテ更ニ會議ヲ開クコトニ決定セリ
右ニ關シ岸ヨリ稅關長ニ對シ其ノ回答振ニ付豫メ内報ヲ求
メタルニ對シ稅關長ハ稅關トシテハI、G、ニ「リファ
ー」セスシテハ何等資料ヲ提供シ難キ旨ヲ首席領事ニ答フ
ル積リナリト答ヘタル趣ナリ
大臣、南京へ轉電セリ

270 昭和10年11月9日 在中国有吉大使より
広田外務大臣宛(電報)

經濟開發のための機構設立に關シ張群と意見
交換について

南京 11月10日後発
本省 11月11日前着

第一二四五號(極秘)

往電第一二一六號ニ關シ

十日張群ト會見ノ際本官ヨリ先般ノ北支會議出席諸官ト大
體打合セノ趣旨ニモ從ヒ北支支那側當局ニ於テモ略異存無
キ次第二モアルニ付テハ此ノ際速ニ同地方行政ノ單純化ト
財政ノ立直シヲ實行シ我方ト協力シテ棉花栽培、鑛山ノ採
掘、交通機關ノ整備等經濟開發ニ乗出シ結局同方面ノ特殊
事態ニ即スル機構ヲ中央政府ノ面子及「デグニテイ」ヲ
害セサル方法ニテ示現スルコト焦眉ノ急ナル旨ヲ説示シ蔣
介石其ノ他ノ幹部ニ於テモ此ノ機會ニ是非トモ右方針ヲ決
定シ置ク様致度シト申聞ケタルニ張ハ大部分自分モ同意見
ナレハ自分ノ意見トシテ右「ライン」ニテ説得ニ努ムヘキ
カ右ニ關シ日本側カ例ヘハ六中全會開會間際ニ至リ藍衣社
狩ニ名ヲ藉リ多數ノ支那官民ノ檢舉ニ著手シタルカ如キハ
要ラサル疑惑ヲ誘致シ強硬對日意見ヲ醸成シタル次第モア

ルニ付茲暫クノ間自分等ヲ信用シ右様ノ措置殊ニ自治問題等ノ話ヲ申出テラレサル様各方面トモ打合セアリタシト懇願シ居タリ

支、北平、天津へ轉電セリ

272 昭和10年12月10日

在中国武藤(義雄)大使館一等書記官より
広田外務大臣宛(電報)

天津領事団の要請により北平の外交団が中国政府に対し天津地方の密輸横行に有効な措置を講ずるよう共同通牒発出方検討中について

北平 12月10日夜発
本省 12月10日夜着

第四四二號

本官發支宛電報

第三五五號

外交團首席ヨリ十一月二十三日附外交團同章ヲ以テ在天津總領事團首席代理(白耳義領事「スニエール」)ノ十一月十六日附外交團首席伊國大使宛書翰ヲ廻付シ來レルカ右白耳

大臣、天津、南京へ轉電セリ

(欄外記入)

斯ル問題ヲ外交團ノ名ニ於テ提出スル習慣ハ破壊セサルベカラズ。武藤ハ宜シク本問題ハ外交團ノ問題ニアラズ各國別個ニ取扱フベキ問題ナリト附義スベキナリ

273

昭和10年12月14日

在天津川越總領事より
広田外務大臣宛(電報)

天津地方密輸問題に關し天津領事団より外交団に対する措置方要請の経緯について

天津 12月14日夜発
本省 12月14日夜着

第三八五號

本官發支宛電報

第二三三號

北平發貴大使宛電報第三五五號ニ關シ

往電第一七六號末段稅關長ノ首席領事宛回答ハ十一月六日附ヲ以テ送達セラレタルカ其ノ要旨ハ密輸問題ニ關スル領

(欄外記入)義領事書翰ノ内容ハ天津地方ニ於テ目下盛ニ行ハレ居ル密輸ノ問題ニ付天津領事官ハ外交團ノ注意ヲ喚起シ度シト冒頭シ天津商業會議所ヨリノ通報ニ依レハ密輸品ニ依ル競争ノ爲支那及諸外國ノ商人ハ極端ナル打撃ヲ被リ支那商人中ニハ破産ニ瀕セル者アリ歐米及日本ノ輸入商ハ多大ノ損失ヲ餘儀ナクセラレ居ルトノコトニシテ之ニ對シ至急何等カノ措置ヲ講スルノ要アルモ當地地方海關側今迄ノ努力ハ甲斐ナク問題ハ中央政府ノ決定ニ依ルノ外ナキニ付外交團ニ於テ速ニ本件ヲ取上ケ有效ナル手段ヲ講セラレ度シトノ趣旨ヲ述ヘタルモノニシテ右同章ニ對シ佛國代理公使ハ各大公使ヨリ共同通牒ヲ以テ外交部ノ注意ヲ喚起スルコト然ルヘク本件ニ關シテハ外交人ノ利害一致シ居ルニ鑑ミ右措置ハ妥當ナルヘク南京政府モ右ヲ不愉快トセス却テ善後措置ヲ講シ易クナルヘシトノ意見ヲ附シ英、米、和蘭、西班牙、葡萄牙右ニ贊成シ居ル處本官ハ閣下ニ請訓中ナル旨ヲ述ヘ置キタリ(獨逸、白耳義、伯刺西爾ヘハ同章未廻付ナリ)本件ニ關シテハ前記白耳義領事ノ書翰發出ニ至レル經緯其ノ他參考トナルヘキ事項ニ付在天津總領事ニ照會ノ上改メテ何分ノ儀請訓致スヘキモ不取敢

事團ノ困難ハ了解シ居リ密輸ニ關シ領事團ノ各員カ提示セラルヘキ個々ノ問題ニ付テハ喜ンテ討議スヘキモ現在ノ情勢ノ複雑ナルコト及關係利害及問題ノ多樣(Diverse)ナルニ顧ミ總稅務司ノ「オーソリテイ」無シニハ全般的意見ヲ述フル譯ニ行カスト云フニアリ(貴電第四〇號)訓令ハ稅關長目下病氣ニテ探リ難キモ稅關長ニ於テ握潰シ居ルモノノ如ク未回答ノ儘トナリ居レリ)右回答ニ關シ十一月十三日領事團會議(岸出席)ノ席上稅關長ニ對シ之レ以上追求スルモ満足ナル回答ハ得ラレサルヘキニ付首席大使ニ對シ外交團ヨリ中央政府ニ對シ交渉方ヲ請求スルコトニ全員一致決定セル次第ニシテ

(2)元來我方トシテハ密輸ハ條約ニ依リ支那政府ニ於テ之カ取締ニ任スヘキ權限ヲ有シ居ルニ付稅關當局カ取締ヲ嚴ニスル様鞭撻ヲ爲スコトハ何等我方從來ノ建前ニ牴觸セサルモノト認メ當方トシテモ大勢順應ノ意味ニテ簡單ニ贊成シ置キシ次第ナリ(尙右會議ノ席上英國總領事ヨリ在支英國臣民及會社ハ充分ナル證據アラハ密輸ノ廉ヲ以テ領事裁判ニ依リ處罰スルコトヲ得ル旨ヲ述ヘ他ノ治外法權國各領事モ亦當該國民ニ付大体同様ノ旨説明アリ岸ヨリ日本ノ法律ハ

日本臣民ヲ支那ニ於ケル密輸ノ廉ヲ以テ訴追スヘキ規定無キ旨ヲ述ヘタル経緯アリ)

大臣、南京、北平へ轉電セリ

往電第一七六號北平へ轉電セリ

貴電第三九號及第四〇號貴方ヨリ北平へ轉電アリタシ

~~~~~

274 昭和10年12月17日 広田外務大臣より  
在中国有吉大使宛(電報)

天津地方での密輸問題に關し外交団が検討している中国  
政府への共同通牒發出は各国各別の対応を至当とする旨意見  
回示方訓令

付記 昭和十一年一月八日発在中国武藤大使館一等

書記官より広田外務大臣宛電報第一〇号

我が方の意見回示を受け英国大使が通牒は各国別にすべしとの意見表明について

本省 12月17日後7時30分発

第三三五號

北平發支宛電報第三三五號ニ關シ

本件ニ關シ我方ヨリ支那側ヲ追求シ行クニ於テハ支發天津

宛第四〇號總稅務司回訓ノ如キ意見ヲ誘發シ我方ノ立場ヲ

「オークワード」ナラシムル虞アリ(天津發支宛電報第二二三

三號ニ依レハ稅關長ハ本件ヲ荒立テ度ナキ模様ナリ)殊ニ

外交團回章ニ關スル佛國側意見ノ如ク共同通牒ヲ以テ外交

部ノ注意ヲ喚起スル如キハ益々面白カラサルニ付右回章ニ

對スル貴大使ノ意見トシテハ大体「密輸取締ハ條約ノ範圍

内ニ於テ支那側當然ノ責任及權利ナルヲ以テ此ノ際更メテ

右取締方ニ付其ノ注意ヲ喚起スルノ要ナカルヘク各國ニ於

テ必要ト認ムル場合ニ於テハ各別ニ適當ノ措置ヲ執ルコト可然」ト云フカ如キ趣旨トセラル、コト可然

尙右ニ御異存ナクハ支發天津宛電報第五四號ノ次第アルモ

必スシモ支發天津宛電報第五〇號ノ結果ヲ待タルコトナ

ク外交團側ニ措置セラレ度

北平、天津、南京ニ轉電セリ

(付記)

北平 昭和11年1月8日夜発

本省 昭和11年1月8日夜着

第一〇號

本官發支宛電報

第九號

客年十二月廿七日附公第二二六〇號拙信ヲ以テ報告致シ置キタル外交團回章(天津ニ於ケル密輸問題ニ關スル閣下ノ「オブザーベーション」ニ對シ英國大使ハ「然ラハ共同通

牒ノ形ニ依ラス各國別々ニ支那側ノ注意ヲ喚起スルノ措置

ヲ執ルコト然ルヘシ」トノ趣旨ノ意見ヲ附シタリ不取敢

大臣、南京、天津へ轉電セリ

~~~~~